

## 高齢者等実態調査の結果について

### 1 目的

文京区に在住の 65 歳以上の高齢者で介護保険の要介護・要支援認定を受けていない第 1 号被保険者と、介護や様々な地域活動の担い手として期待されているミドル・シニア世代について、日常生活の実態、介護予防や健康への取組等を把握することにより、平成 29 年度に実施する高齢者・介護保険事業計画（平成 30 年度～32 年度）策定の基礎資料を得ることを目的とする。

また、要介護・要支援認定を受けている被保険者について、主として在宅生活の継続や家族介護者の就労継続に有効な介護サービスの在り方を検討するため、日常生活の実態や暮らしの意向、介護保険サービスの利用状況等を把握し、今後の施策に役立てることとする。

加えて、区内の介護サービス事業所を対象に、事業所の概要や介護人材の現状を把握するとともに、防災対策等の危機管理体制や介護保険サービスの質の向上への取組状況を把握することにより、今後の介護サービスの提供基盤の整備に資するための基礎資料とする。

### 2 調査の種類

- (1) 第 1 号被保険者調査
- (2) ミドル・シニア（50～64 歳）調査
- (3) 要介護・要支援認定者調査
- (4) 介護サービス事業所調査

### 3 調査時期

平成 28 年 10 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日

### 4 回収状況

- (1) 区民向け調査

調査の種類	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
①第 1 号被保険者調査	3,000	2,209	2,205	73.5%
②ミドル・シニア（50～64 歳）調査	2,500	1,496	1,486	59.4%
③要介護・要支援認定者調査	3,000	1,940	1,920	64.0%
①②③計	8,500	5,645	5,611	

- (2) 事業所向け調査

調査の種類	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
介護サービス事業所調査	162	139	139	85.8%

### 5 調査結果

別紙（概要版）のとおり

# 平成28年度文京区高齢者等実態調査結果の報告

## 1 はじめに

文京区では、高齢になっても住み慣れた地域で、安心していつまでも生活することができるよう、高齢者施策の更なる充実や地域包括ケアシステムの実現を目指すため、高齢者・介護保険事業計画（平成30年度～32年度）の策定に当たり、高齢者等を対象とした「高齢者等実態調査」を実施した。

本書は、この「高齢者等実態調査」について報告するものである。

## 2 調査の目的

文京区に在住の65歳以上の高齢者で介護保険の要介護等の認定を受けていない第1号被保険者と、介護や様々な地域活動の担い手として期待されているミドル・シニア世代について、日常生活の実態、介護予防や健康への取組等を把握することで、平成29年度に実施する高齢者・介護保険事業計画（平成30年度～32年度）策定の基礎資料を得ることを目的とする。

また、要介護等の認定を受けている被保険者について、主として在宅生活の継続や家族介護者の就労継続に有効な介護サービスの在り方を検討するため、日常生活の実態や暮らしの意向、介護保険サービスの利用状況等を把握し、今後の施策に役立てることとする。

加えて、区内の介護サービス事業所を対象に、事業所の概要や介護人材の現状を把握するとともに、防災対策等の危機管理体制や介護保険サービスの質の向上への取組状況を把握することにより、今後の介護サービスの提供基盤の整備に資するための基礎資料とする。

## 3 調査方法

郵送配付、郵送回収

## 4 実施期間

平成28年10月1日～10月31日

## 5 調査の設計

調査名	調査対象者	調査数・抽出方法	主な調査項目
①第1号被保険者調査			
	要介護・要支援認定を受けていない65歳以上の介護保険被保険者	平成28年9月1日現在の介護保険被保険者台帳より3,000人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、就業状況、地域活動等
②ミドル・シニア（50～64歳）調査			
	要介護・要支援認定を受けていない50～64歳の介護保険被保険者	平成28年9月1日現在の住民基本台帳より2,500人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、就業状況、地域活動、介護の経験等

調査名	調査対象者	調査数・抽出方法	主な調査項目
③要介護・要支援認定者調査			
	要介護・要支援認定を受けている、65歳以上の介護保険被保険者（介護保険施設、認知症高齢者グループホーム、特定施設を利用していない）	平成 28 年9月1日現在の介護保険被保険者台帳より3,000人を無作為抽出	身体・生活状況、災害に関すること、認知症に対する理解度、居宅サービスの利用状況、今後の利用意向、介護者の状況等
④介護サービス事業所調査			
	区内の指定居宅サービス・指定地域密着型サービス等を提供する事業所	162事業所	収支状況、従業員数、人材確保・人材育成の取組、防災対策等

## 6 回収状況

種類	配付数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
①第1号被保険者調査	3,000	2,209	73.6%	2,205	73.5%
②ミドル・シニア調査	2,500	1,496	59.8%	1,486	59.4%
③要介護・要支援認定者調査	3,000	1,940	64.7%	1,920	64.0%
①②③計	8,500	5,645		5,611	
④介護サービス事業所調査	162	139	85.8%	139	85.8%

## 7 表記等について

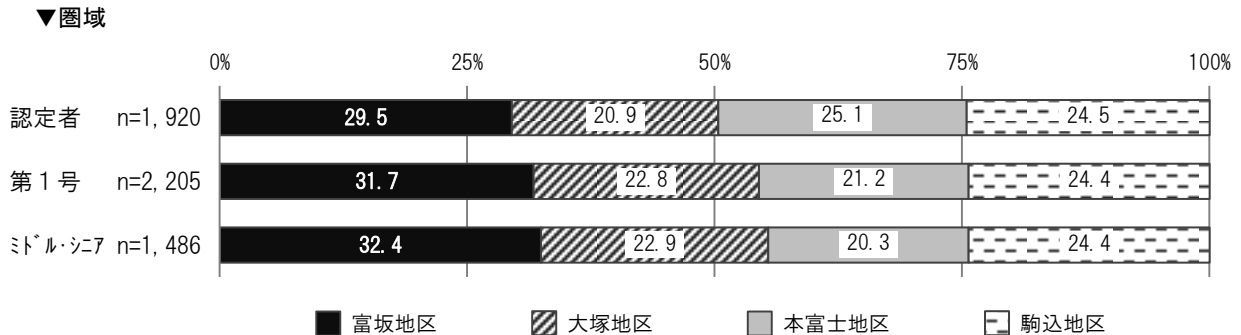
- (1) 表題の後に調査名を省略して記載している。〔認定者〕とは「要介護・要支援認定者調査」、〔第1号〕とは「第1号被保険者調査」、〔ミドル・シニア〕とは「ミドル・シニア（50～64歳）調査」、〔事業所〕とは「介護サービス事業所調査」を意味している。
- (2) 図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数（人）であり、回答率（%）の母数をあらわしている。
- (3) 回答率は、小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがある。また、回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は、100%を超えることがある。
- (4) 図表タイトルの後に「（複数回答）」等の記載がない設問は、単数回答である。
- (5) 選択肢の一部を省略・編集している場合がある。
- (6) 圏域別のクロス集計は、〔認定者〕、〔第1号〕、〔ミドル・シニア〕の全ての調査を合計して圏域別に集計したものであり、「調査全体」と表記している。
- (7) クロス集計については、分析の柱となる項目（属性）の「無回答」は掲載を省略している。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため、分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても必ずしも全体の数値とは一致しない。
- (8) クロス集計表のうち、網掛けの数値は横に見て第1位の項目（「特にない」、「無回答」等を除く）である。

## 8 調査結果（要介護・要支援認定者、第1号被保険者、ミドル・シニア）

### （1）回答者の属性

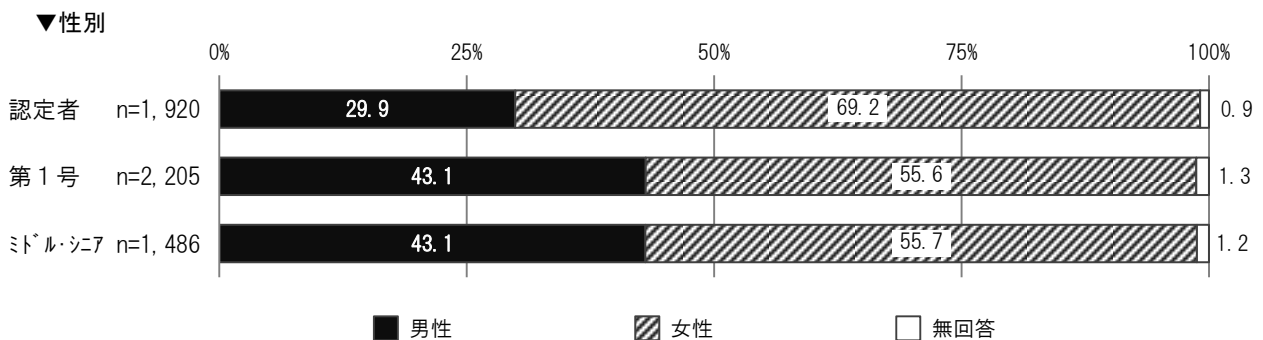
#### ①圏域〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

圏域ごとの対象者の分布は、実際の人口割合とほぼ同様となっている。



#### ②性別〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

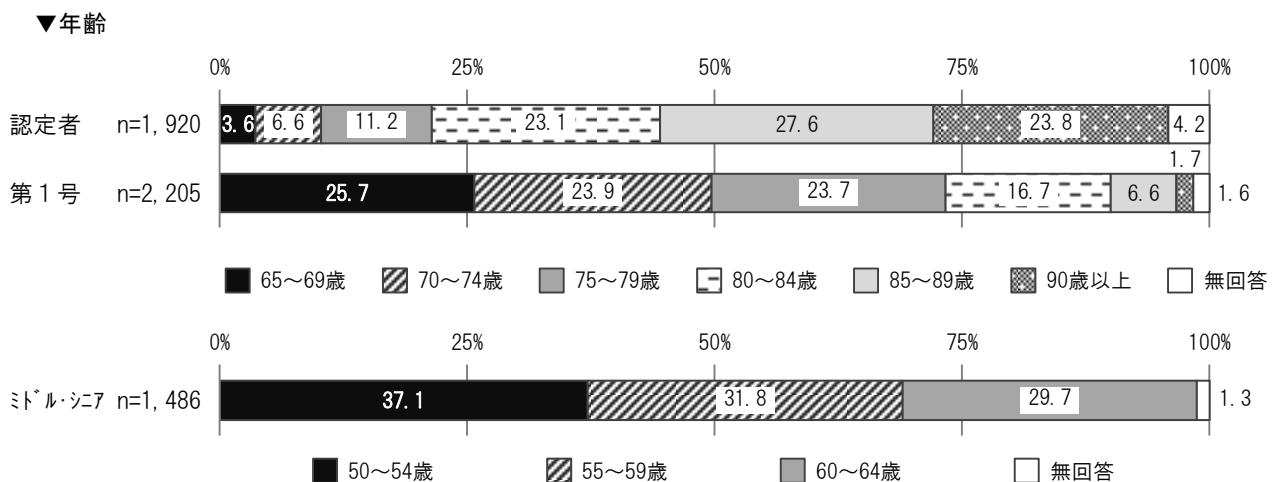
性別は、いずれの対象者も「女性」の割合が高く、〔認定者〕は「女性」が69.2%、〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は「女性」が約56%となっている。



#### ③年齢〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

年齢は、75歳以上（後期高齢者）の割合は、〔認定者〕は85.7%であるが、〔第1号〕は48.7%となっている。

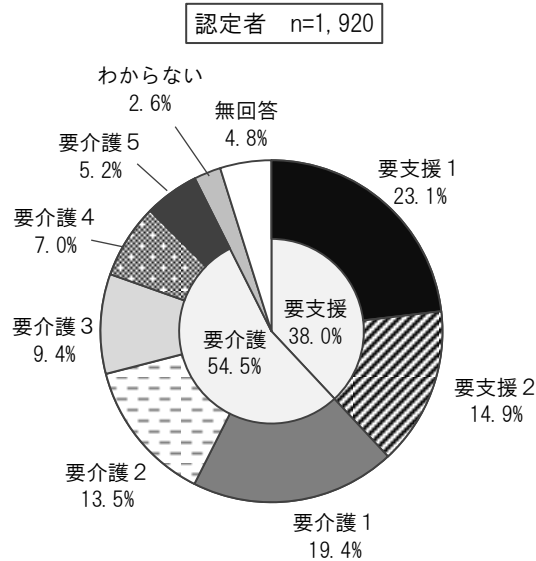
〔ミドル・シニア〕は「50～54歳」が37.1%、「55～59歳」が31.8%、「60～64歳」が29.7%となっている。



#### ④要支援・要介護度〔認定者〕

要支援・要介護度は、「要支援1」「要支援2」を合わせた割合は38.0%、「要介護1」～「要介護5」を合わせた割合は54.5%となっている。

##### ▼要支援・要介護度



#### ⑤世帯構成〔認定者、第1号〕

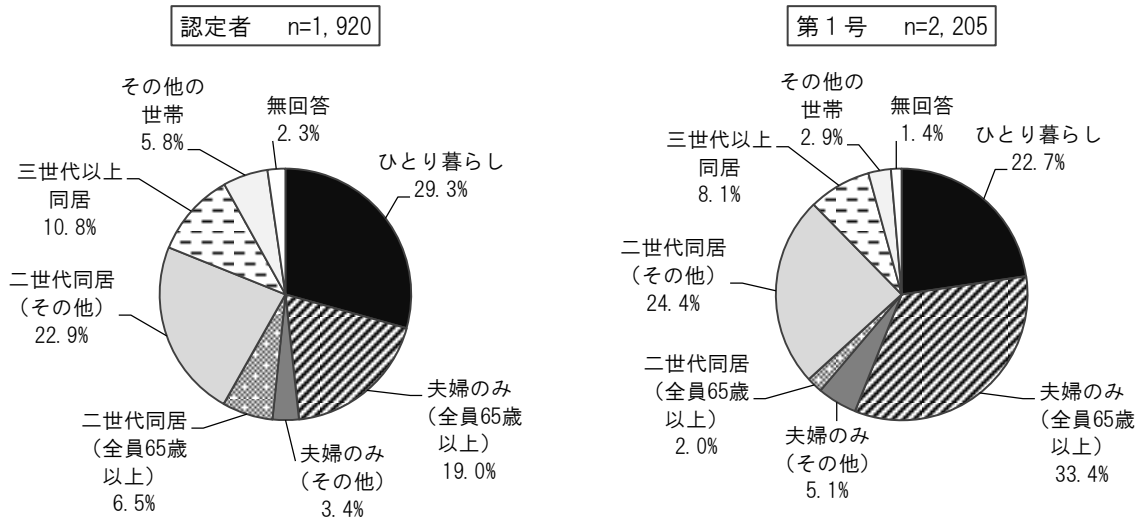
「ひとり暮らし」の割合は、〔認定者〕が29.3%、〔第1号〕が22.7%となっている。また、65歳以上の世帯の割合は、〔認定者〕が57.8%、〔第1号〕が60.0%となっている。

##### ▼世帯構成（小分類）

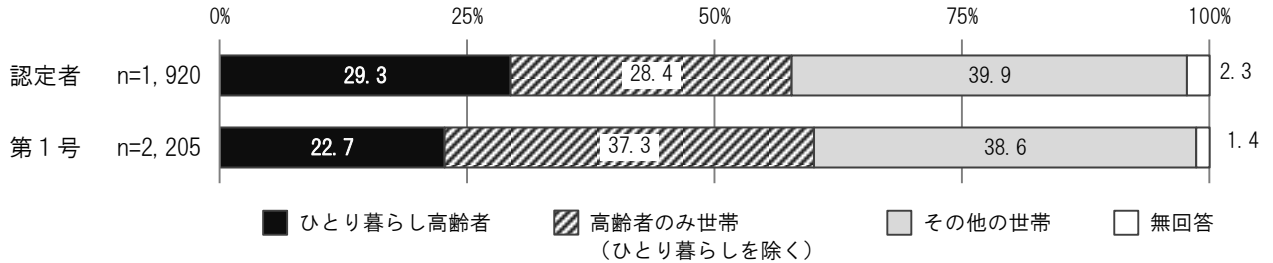
	世帯構成		認定者		第1号	
			人数	%	人数	%
1	ひとり暮らし	65歳以上	563	29.3	500	22.7
2	夫婦のみ	全員65歳以上	364	19.0	736	33.4
3		いずれか65歳未満	26	1.4	58	2.6
4		年齢不明	39	2.0	55	2.5
5	子どもと二世帯同居	全員65歳以上	120	6.3	26	1.2
6		いずれか65歳未満	406	21.1	508	23.0
7		年齢不明	28	1.5	30	1.4
8	親と二世帯同居	全員65歳以上	5	0.3	19	0.9
9		いずれか65歳未満	4	0.2	1	0.0
10		年齢不明	2	0.1	0	0.0
11	三世帯以上同居	全員65歳以上	4	0.2	4	0.2
12		いずれか65歳未満	192	10.0	165	7.5
13		年齢不明	12	0.6	9	0.4
14	その他	全員65歳以上	53	2.8	38	1.7
15		いずれか65歳未満	32	1.7	23	1.0
16		年齢不明	26	1.4	3	0.1
	無回答		44	2.3	30	1.4
	全体		1,920	100.0	2,205	100.0

※「ひとり暮らし」と全員65歳以上の世帯を網かけしている。

▼世帯構成（中分類）



▼世帯構成（大分類）

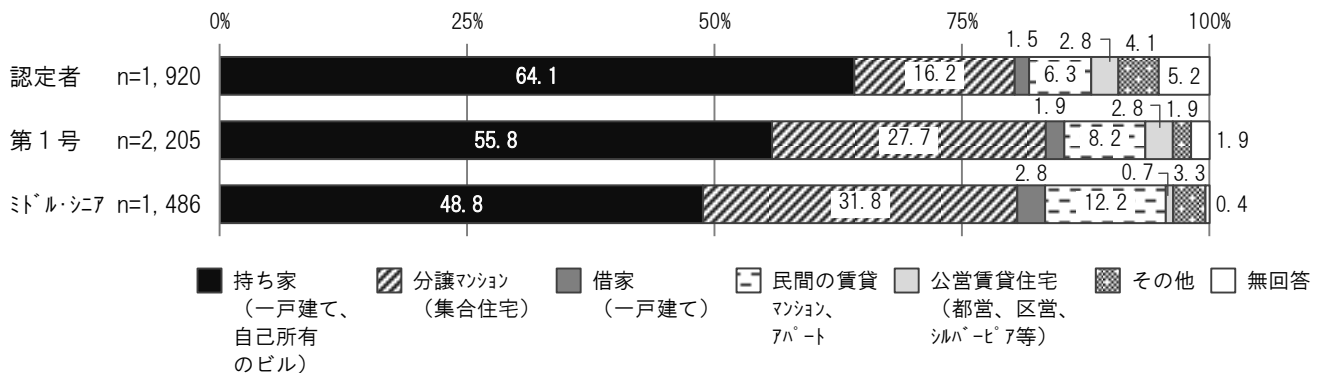


(2) 住まいについて

①住居形態〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住居形態は、いずれの対象者も「持ち家（一戸建て、自己所有のビル）」が最も多くなっている。いずれの対象者も「持ち家」と「分譲マンション（集合住宅）」を合わせると80%を超えている。  
 圏域別にみると、「持ち家」の割合は駒込地区が62.3%で最も高くなっている。

▼住居形態



▼住居形態/圏域別

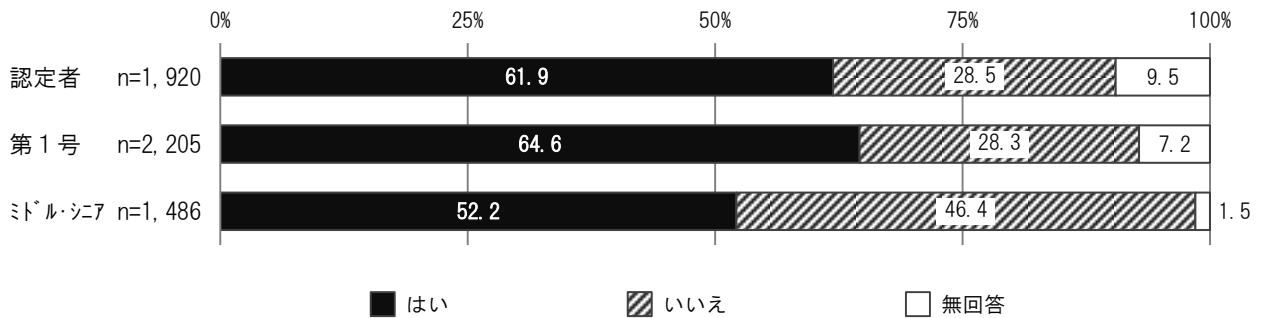
単位：%

項目	回答者数(人)	持ち家	分譲マンション	借家	民間の賃貸マンション、アパート	公営賃貸住宅	その他	無回答	
調査全体	5,611	56.8	24.8	2.0	8.6	2.2	3.0	2.6	
圏域別	富坂 地区	1,747	55.5	27.8	1.7	8.5	1.6	2.5	2.5
	大塚 地区	1,244	54.3	28.2	2.4	8.2	1.1	3.3	2.5
	本富士地区	1,250	55.0	24.8	2.2	7.1	3.8	3.0	4.0
	駒込 地区	1,370	62.3	18.0	1.8	10.4	2.6	3.3	1.6

②今後も住み続けられる住まいか〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

今後も住み続けられる住まいかについて、「はい」の割合は、〔認定者〕が61.9%、〔第1号〕が64.6%であるのに対し、〔ミドル・シニア〕は52.2%となっている。

▼今後も住み続けられる住まいか

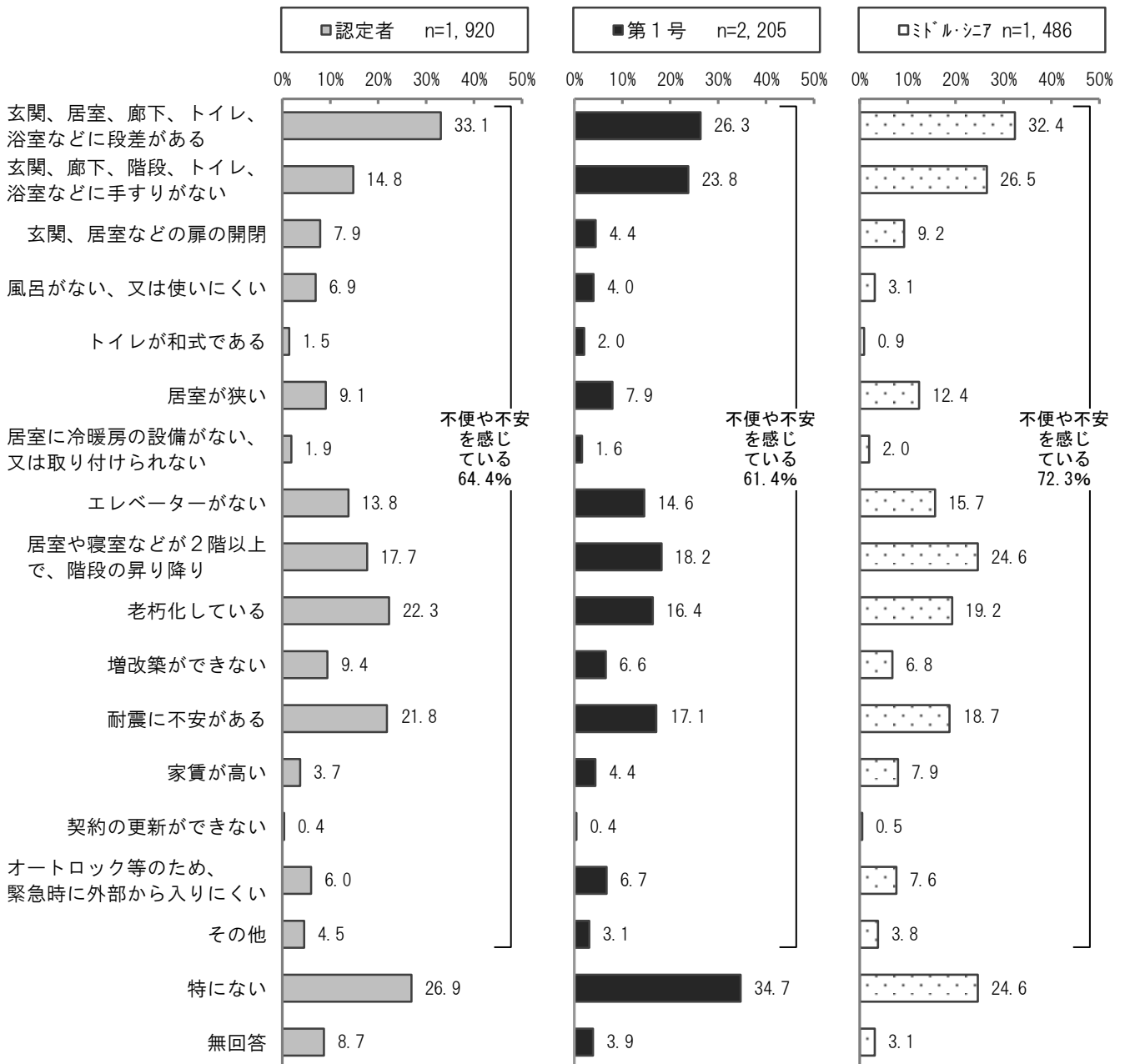


### ③住まいについて不便や不安を感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住まいについて不便や不安を感じていることは、いずれの対象者も「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある」が最も高くなっている。〔認定者〕は次いで「老朽化している」が高く、〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は次いで「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに手すりがない」が高くなっている。

何らかの不便や不安を感じている割合は、〔ミドル・シニア〕が72.3%で最も高く、次いで〔認定者〕が64.4%、〔第1号〕が61.4%となっている。

▼住まいについて不便や不安を感じていること（複数回答）



※「不便や不安を感じている」=100%－「特にない」－「無回答」



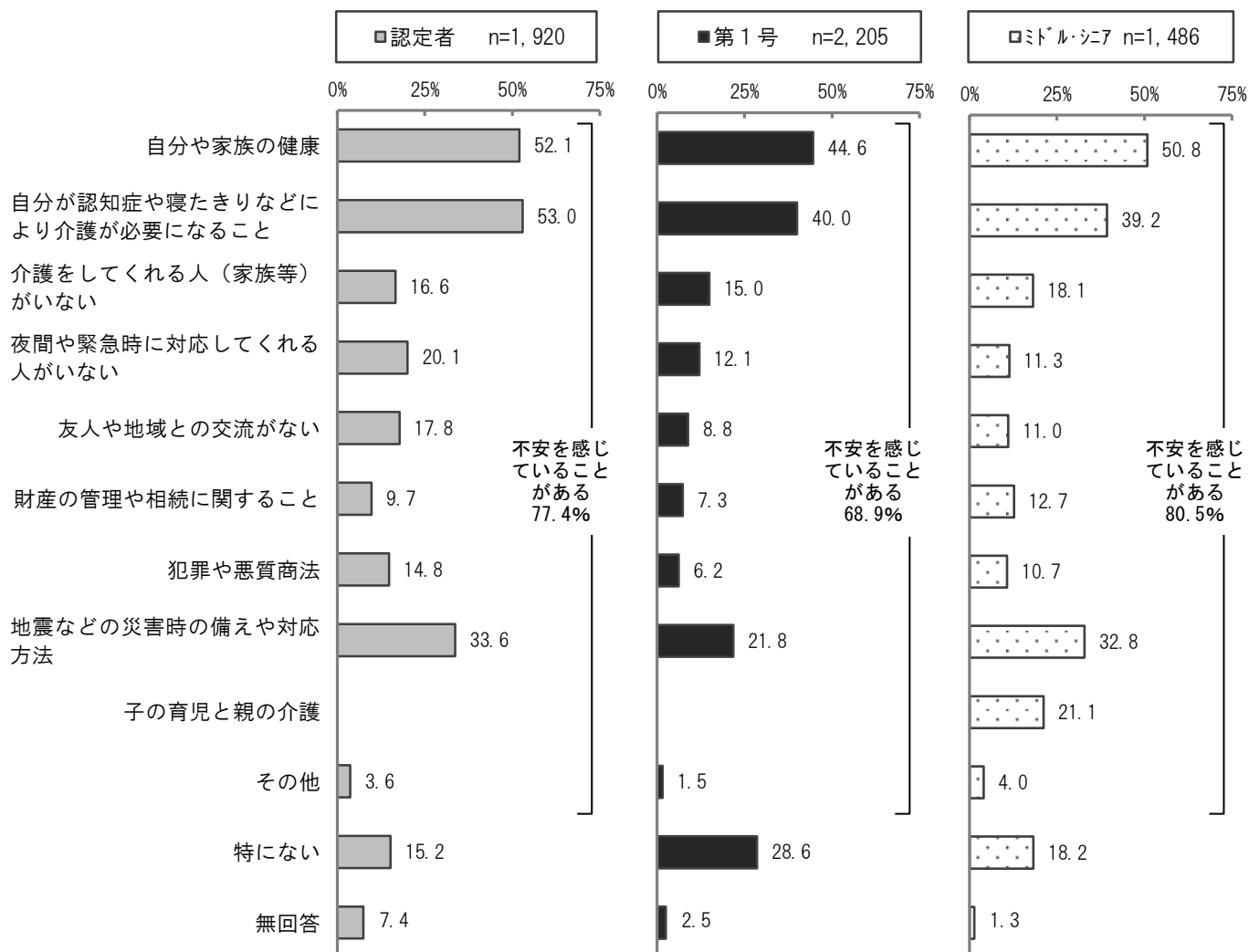
### (3) 日常生活について

#### ①現在の生活上の不安〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

生活上の不安は、いずれの対象者も「自分や家族の健康」「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」が上位2項目となっている。〔認定者〕は「自分が認知症や寝たきりなどにより介護が必要になること」「自分や家族の健康」がともに50%を超え、〔ミドル・シニア〕は「自分や家族の健康」が最も高く50%を超えている。

不安を感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が80.5%で最も高く、次いで〔認定者〕が77.4%、〔第1号〕が68.9%となっている。

#### ▼生活上の不安（複数回答）



※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

#### (4) 高齢者あんしん相談センターについて

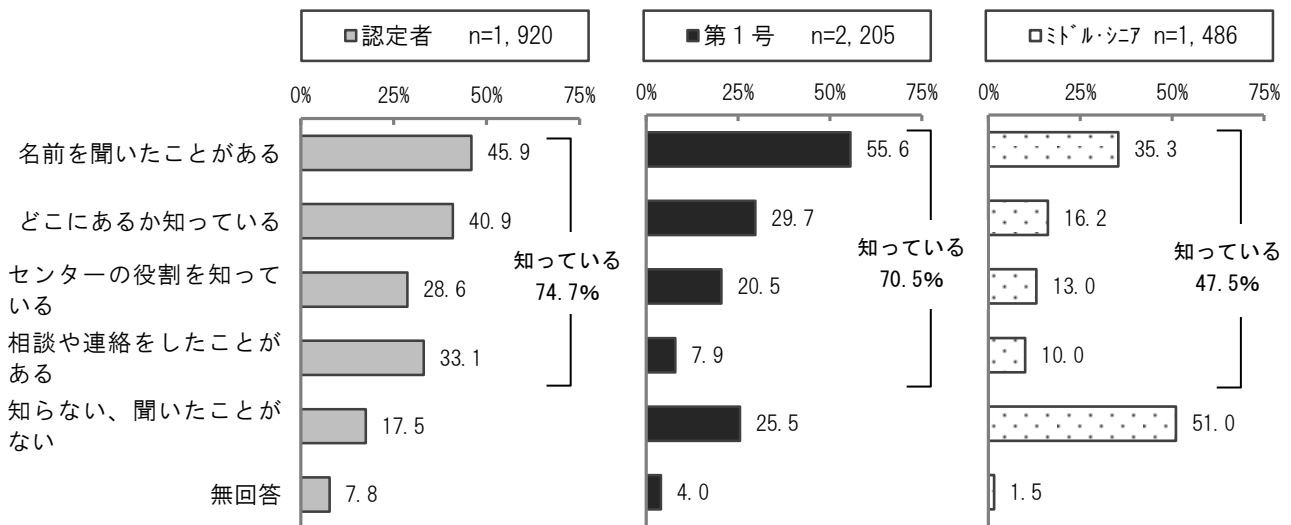
##### ① 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の認知度及び利用の有無〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

高齢者あんしん相談センターを知っている割合は、〔認定者〕が74.7%で最も高く、次いで〔第1号〕が70.5%、〔ミドル・シニア〕が47.5%となっている。

〔認定者〕〔第1号〕は「名前を聞いたことがある」が最も高く、それぞれ45.9%、55.6%となっており、次いで「どこにあるか知っている」が高く、それぞれ40.9%、29.7%となっている。

〔ミドル・シニア〕は「知らない、聞いたことがない」が最も高く、50%を超えている。

##### ▼ 高齢者あんしん相談センターの認知度及び利用の有無（複数回答）



圏域別にみると、「名前を聞いたことがある」割合は本富士地区が48.1%で最も高くなっている。平成25年度調査と比較すると、いずれの圏域も各認知度は10ポイント程度高くなっているが、「相談や連絡をしたことがある」割合は大きな変化はみられない。

##### ▼ 高齢者あんしん相談センターの認知度及び利用の有無（複数回答）/圏域別 単位：%

項目	回答者数(人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答	
調査全体	5,611	46.9	29.9	21.3	17.1	29.5	4.6	
圏域別	富坂 地区	1,747	46.5	27.5	22.2	15.7	30.5	5.1
	大塚 地区	1,244	45.6	30.5	20.7	17.1	30.7	4.7
	本富士地区	1,250	48.1	28.5	20.6	17.1	29.9	3.8
	駒込 地区	1,370	47.4	33.9	21.4	18.7	26.9	4.7

##### ▼ (参考) 平成25年度調査

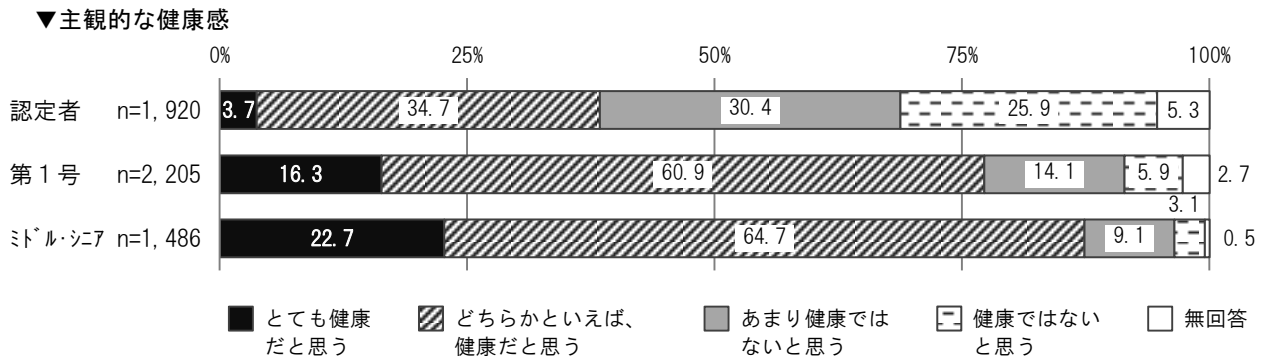
単位：%

項目	回答者数(人)	名前を聞いたことがある	どこにあるか知っている	センターの役割を知っている	相談や連絡をしたことがある	知らない、聞いたことがない	無回答	
調査全体	5,301	36.7	20.0	11.8	16.1	37.6	7.0	
圏域別	富坂 地区	1,685	36.8	17.9	12.3	15.0	38.9	7.6
	大塚 地区	1,139	34.9	20.7	11.1	17.5	40.0	6.1
	本富士地区	1,173	38.1	17.3	10.8	13.6	38.1	7.1
	駒込 地区	1,304	37.0	24.6	12.7	18.4	33.3	7.0

## (5) 健康・介護予防について

### ①主観的な健康感〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

主観的な健康感は、いずれの対象者も「どちらかといえば、健康だと思う」が最も高く、それぞれ34.7%、60.9%、64.7%となっている。〔認定者〕は次いで「あまり健康ではないと思う」が30.4%、「健康ではないと思う」が25.9%となっている。〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は次いで「とても健康だと思う」が高く、それぞれ16.3%、22.7%となっている。



### ②かかりつけ医・歯科医・薬局の有無〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

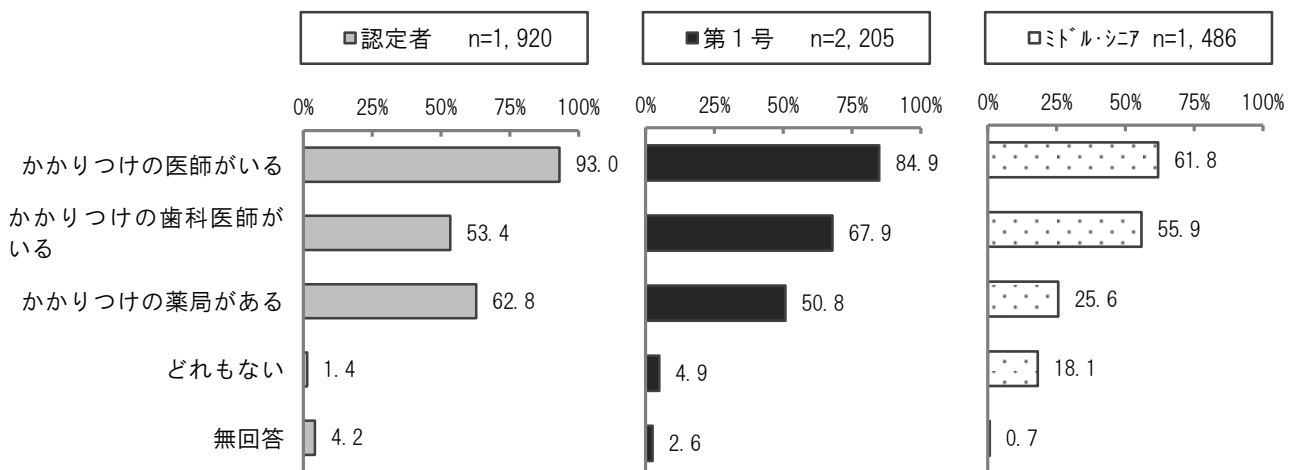
かかりつけ医等の有無は、「かかりつけの医師がいる」は、〔認定者〕が93.0%、〔第1号〕が84.9%となっているのに比べると、〔ミドル・シニア〕は61.8%と低くなっている。

「かかりつけの歯科医師がいる」は、〔認定者〕が53.4%、〔第1号〕が67.9%、〔ミドル・シニア〕が55.9%となっている。

「かかりつけの薬局がある」は、〔認定者〕が62.8%、〔第1号〕が50.8%となっているのに比べると、〔ミドル・シニア〕は25.6%と低くなっている。

また、〔ミドル・シニア〕は「どれもない」が18.1%となっており、他の対象者より高くなっている。

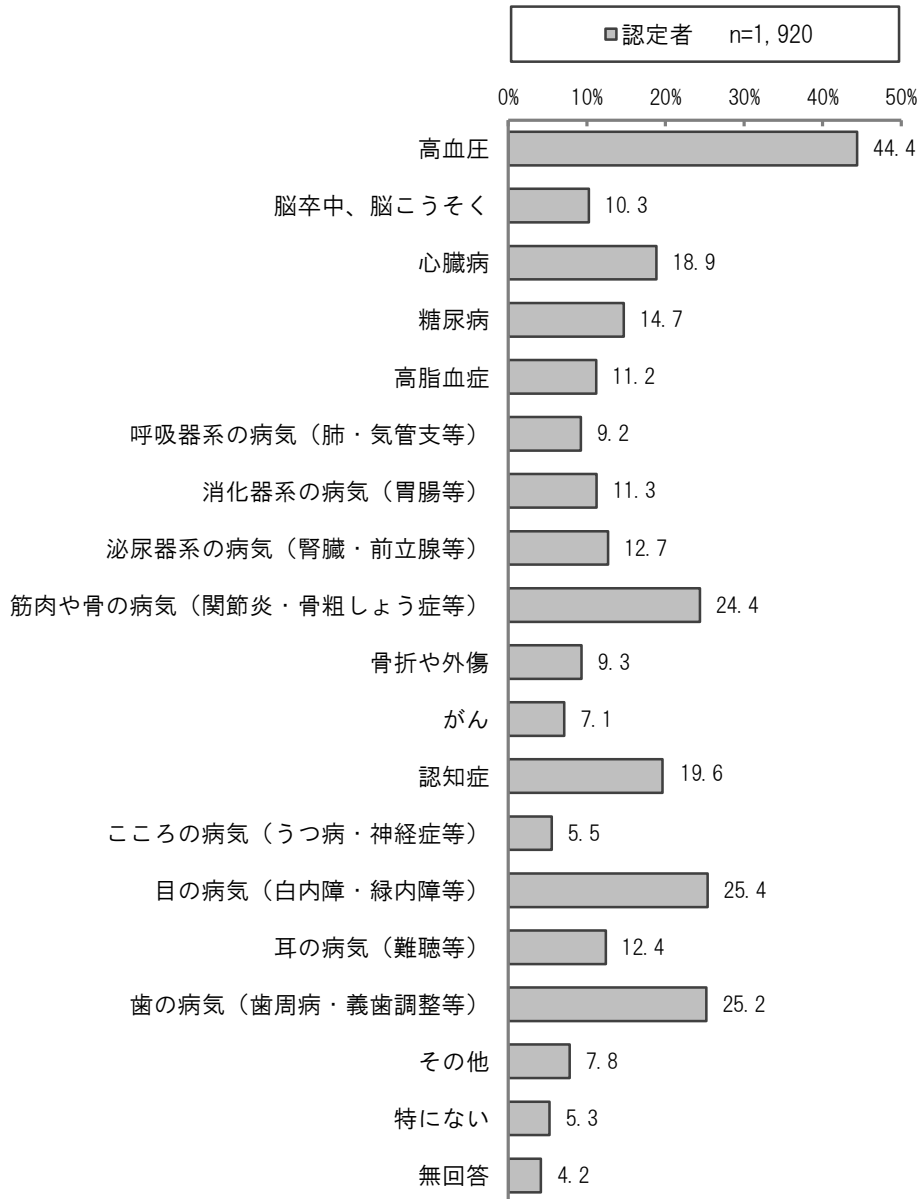
▼かかりつけ医等の有無（複数回答）



### ③現在治療中の病気〔認定者〕

〔認定者〕の現在治療中の病気は、「高血圧」が44.4%で最も高く、次いで「目の病気（白内障・緑内障等）」が25.4%、「歯の病気（歯周病・義歯調整等）」が25.2%となっている。

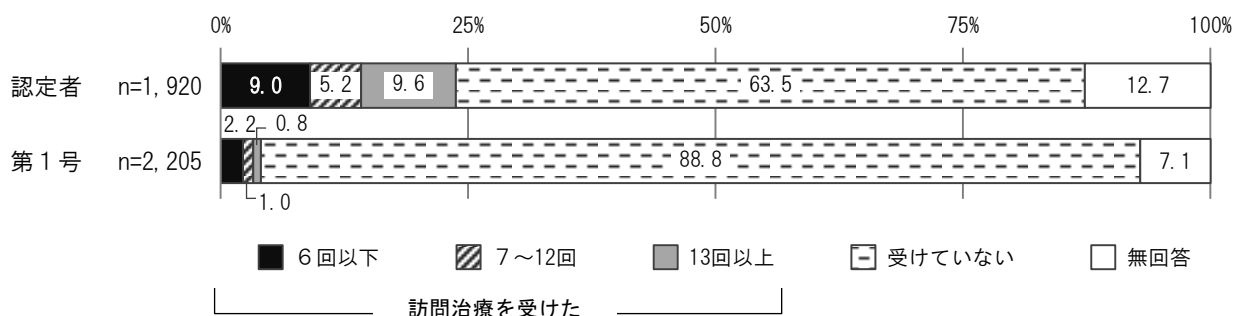
▼現在治療中の病気（複数回答）



### ④1年間に訪問治療を受けた回数〔認定者、第1号〕

1年間に訪問による治療（往診）を受けた割合は、〔認定者〕が23.8%、〔第1号〕が4.0%となっている。〔認定者〕では「13回以上」が9.6%、「6回以下」が9.0%となっている。

▼1年間に訪問治療を受けた回数



### ⑤健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいることがある割合は、〔第1号〕が91.1%で最も高く、〔ミドル・シニア〕が88.2%、〔認定者〕が73.0%となっている。

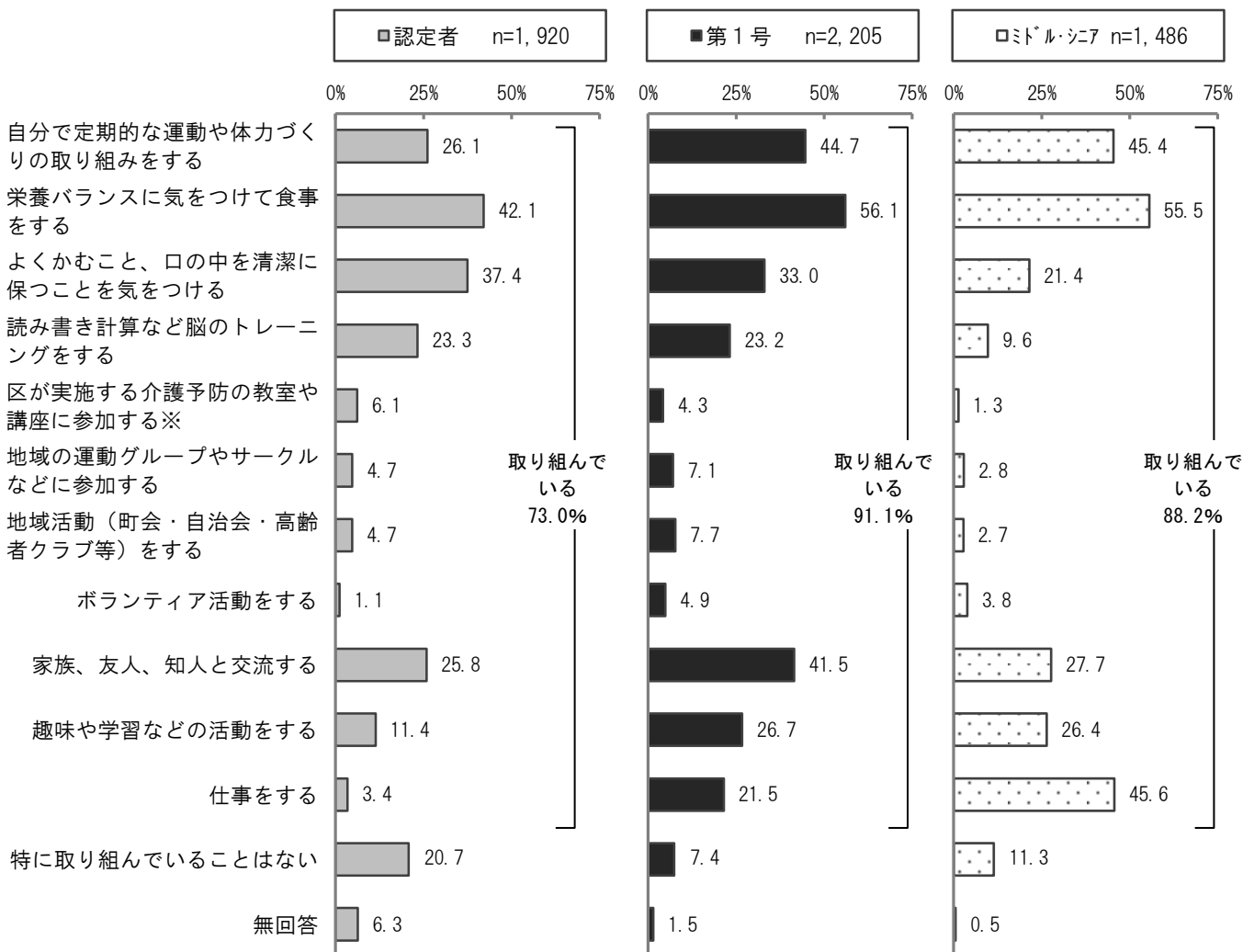
いずれの対象者も「栄養バランスに気をつけて食事をする」が最も高く、それぞれ42.1%、56.1%、55.5%となっている。

〔認定者〕は次いで「よくかむこと、口の中を清潔に保つことを気をつける」が37.4%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が26.1%となっている。

〔第1号〕は次いで「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が44.7%、「家族、友人、知人と交流する」が41.5%となっている。

〔ミドル・シニア〕は次いで「仕事をする」が45.6%、「自分で定期的な運動や体力づくりの取り組みをする」が45.4%となっている。

▼健康の維持・増進や介護予防等のために取り組んでいること（3つ以内複数回答）



※ミドル・シニアは「区が実施する健康づくりの教室や講座に参加する」

※「取り組んでいる」=100%－「特に取り組んでいることはない」－「無回答」

## (6) 認知症について

### ① 認知症のケアや支援制度について知っていること

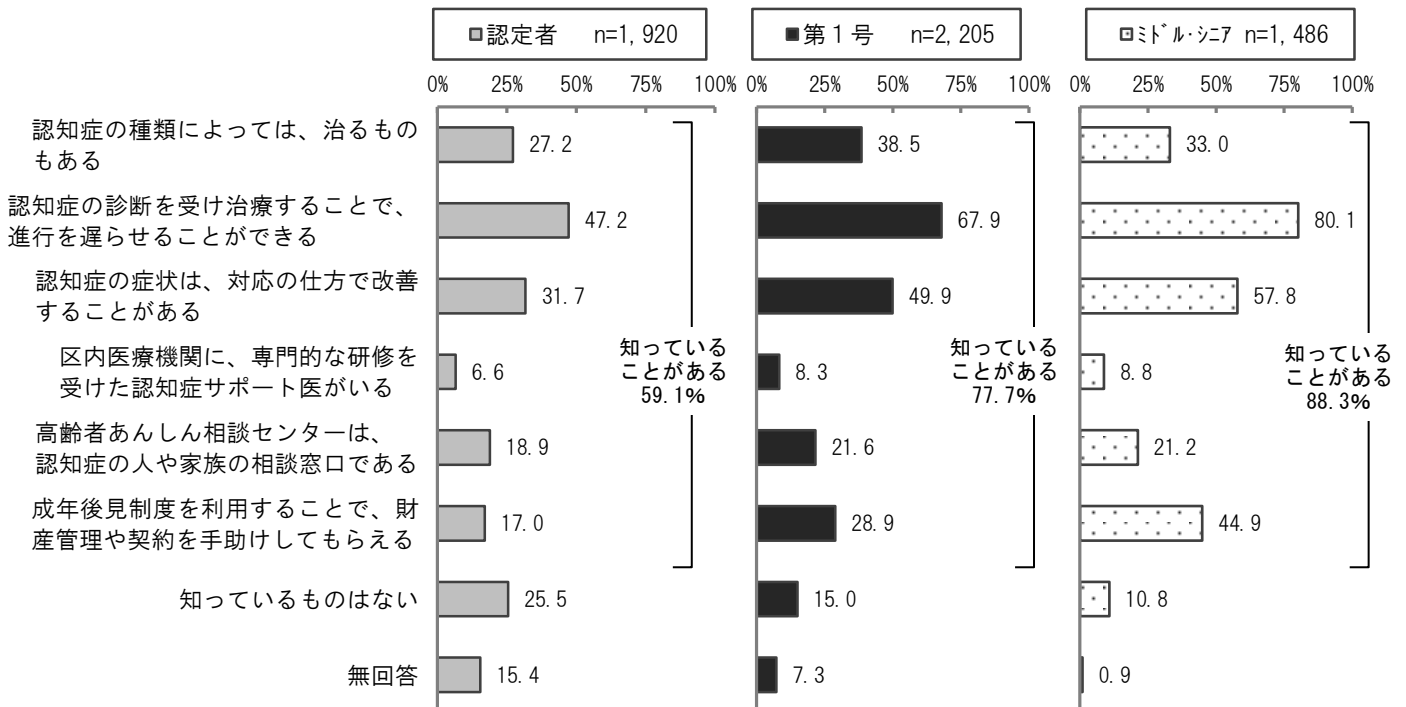
〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

認知症のケアや支援制度について知っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が88.3%で最も高く、次いで〔第1号〕が77.7%、〔認定者〕が59.1%となっている。

いずれの対象者も「認知症の診断を受け治療することで、進行を遅らせることができる」が最も高く、それぞれ47.2%、67.9%、80.1%となっており、次いで「認知症の症状は、対応の仕方改善することがある」が高く、それぞれ31.7%、49.9%、57.8%となっている。

3番目に高いのは、〔認定者〕〔第1号〕は「認知症の種類によっては、治るものもある」がそれぞれ27.2%、38.5%となっており、〔ミドル・シニア〕は「成年後見制度を利用することで、財産管理や契約を手助けしてもらえる」が44.9%となっている。

#### ▼ 認知症のケアや支援制度について知っていること（複数回答）

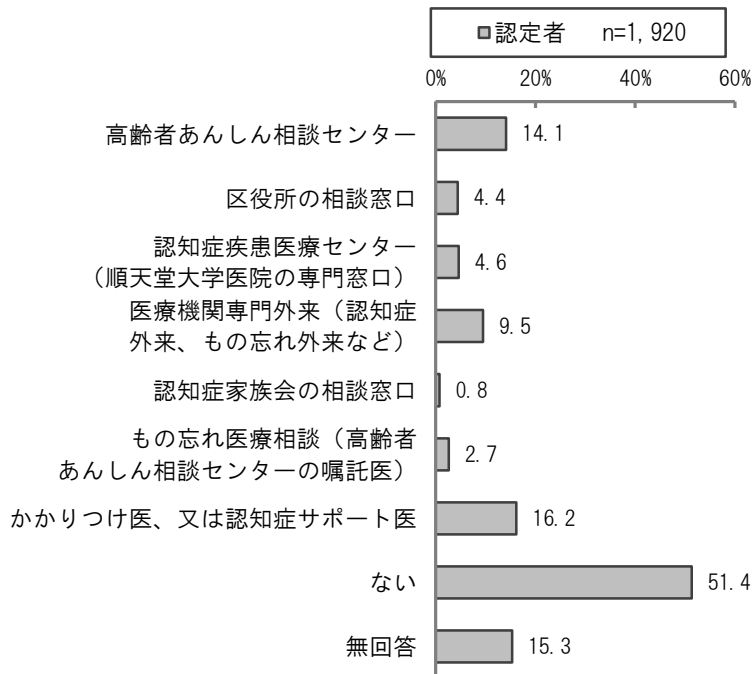


※「知っていることがある」=100%－「知っているものはない」－「無回答」

## ②-1 認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口〔認定者〕

〔認定者〕が認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口については、「ない」が51.4%となっており、「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が16.2%、「高齢者あんしん相談センター」が14.1%、「医療機関専門外来」が9.5%となっている。

▼認知症に関して相談したことがある、又は利用したい相談窓口（複数回答）

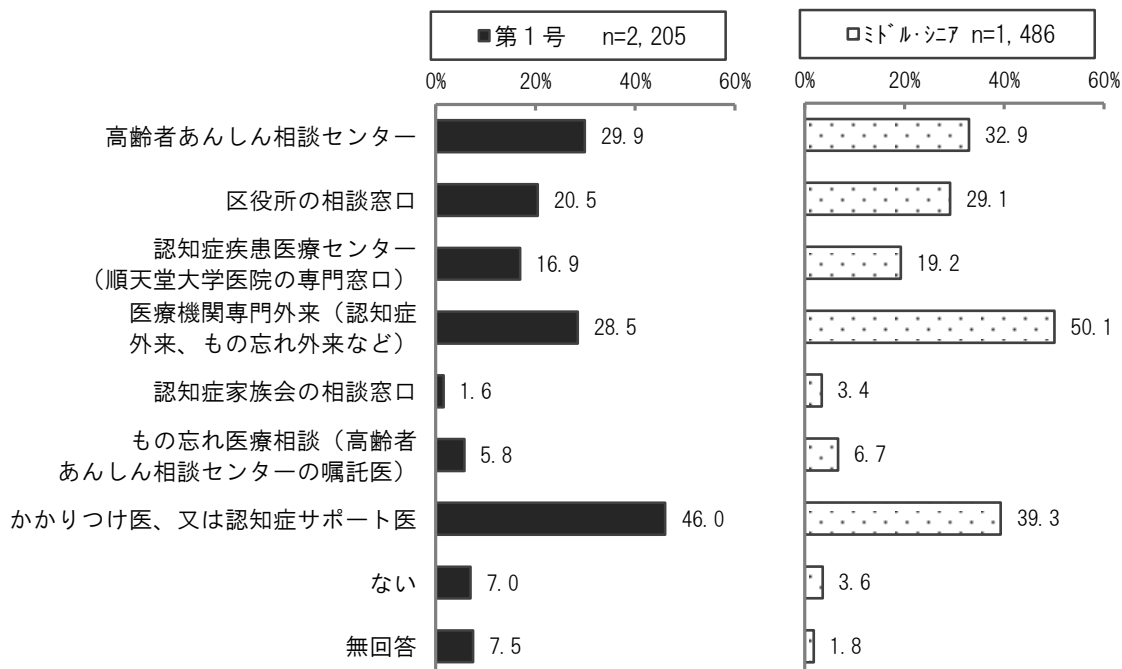


## ②-2 認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口〔第1号、ミドル・シニア〕

認知症に関して相談する場合に利用すると思う相談窓口は、〔第1号〕は「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が46.0%で最も高く、次いで「高齢者あんしん相談センター」が29.9%、「医療機関専門外来」が28.5%となっている。

〔ミドル・シニア〕は「医療機関専門外来」が50.1%で最も高く、次いで「かかりつけ医、又は認知症サポート医」が39.3%、「高齢者あんしん相談センター」が32.9%となっている。

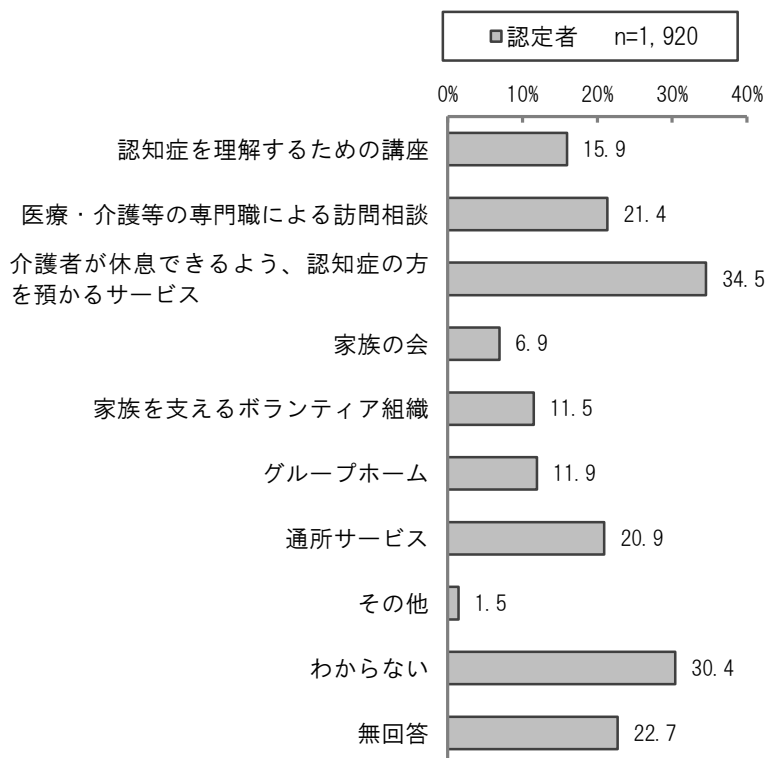
▼認知症に関する相談に利用すると思う窓口（複数回答）



### ③認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるもの〔認定者〕

〔認定者〕が認知症高齢者のいる家族への支援として必要と感じるものは、「介護者が休息できるよう、認知症の方を預かるサービス」が34.5%で最も高く、次いで「医療・介護等の専門職による訪問相談」が21.4%、「通所サービス」が20.9%となっている。  
また、「わからない」が30.4%となっている。

#### ▼認知症高齢者のいる家族に必要な支援（複数回答）





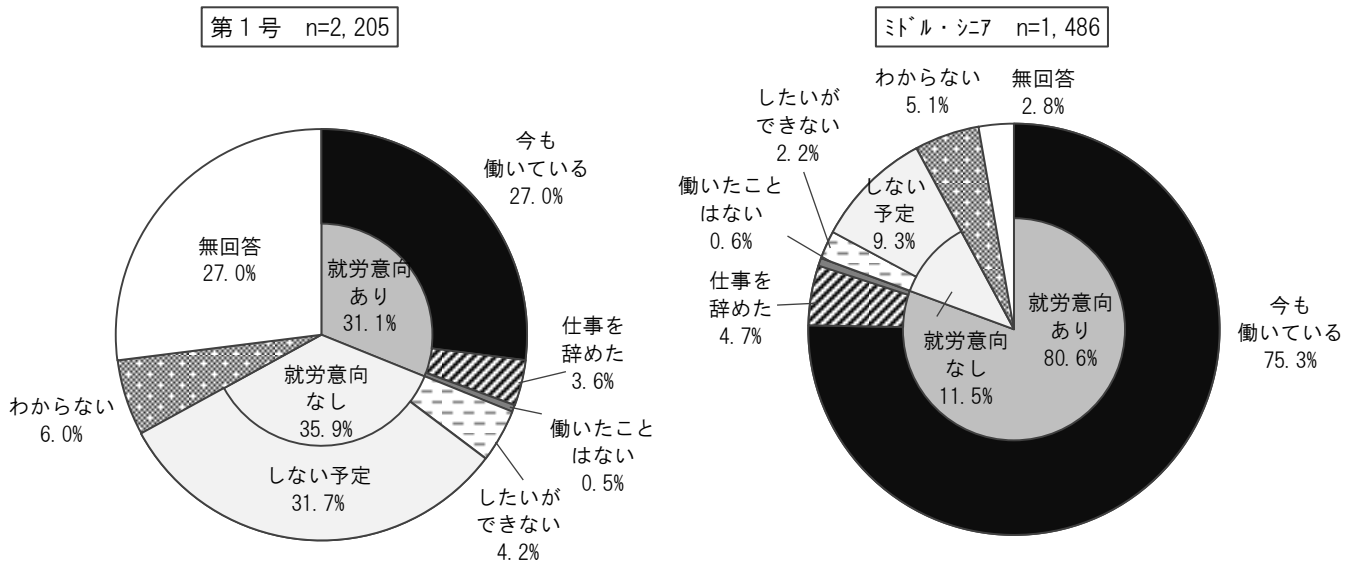
## (7) 就業について

### ①現在の就労状況と今後の就労意向〔第1号、ミドル・シニア〕

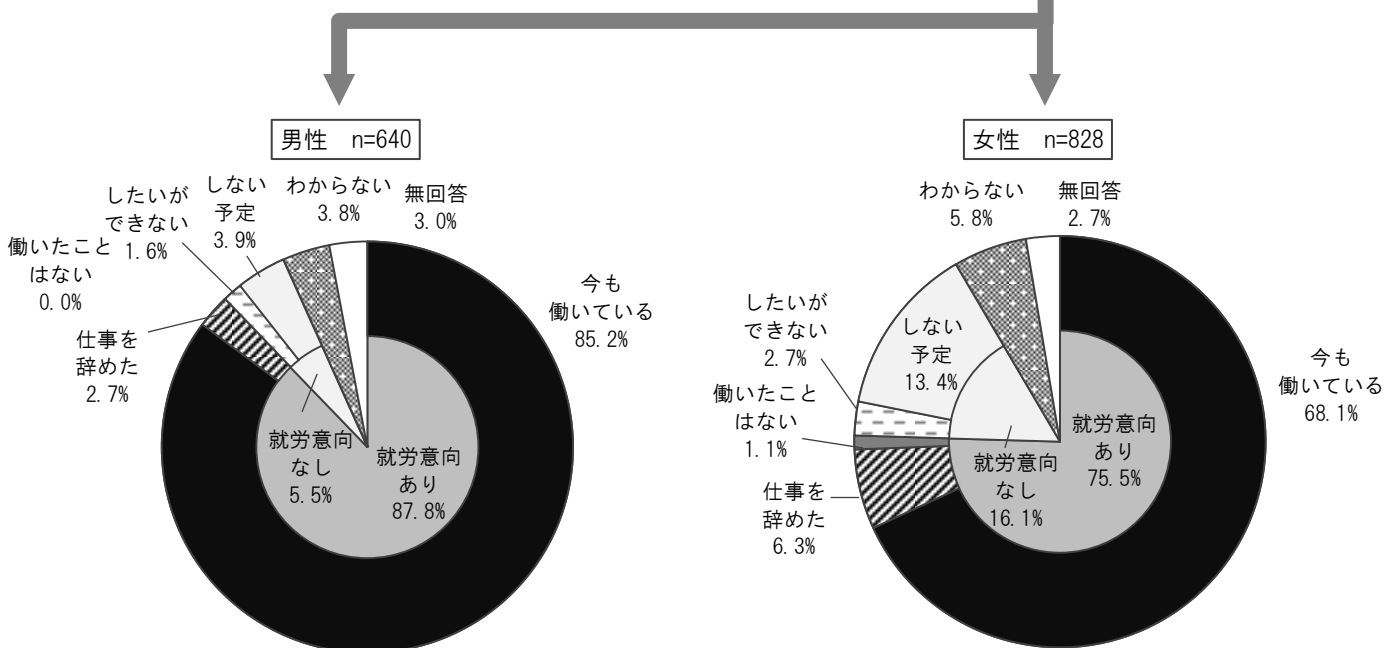
現在の就労状況は、「今も働いている」割合は〔第1号〕が27.0%であるのに対し、〔ミドル・シニア〕では75.3%となっている。〔第1号〕は今後の就労意向のある割合が31.1%、就労意向のない割合が35.9%となっている。〔ミドル・シニア〕は今後の就労意向のある割合が80.6%、就労意向のない割合が11.5%となっている。

〔ミドル・シニア〕を性別にみると、「今も働いている」割合は男性が85.2%、女性が68.1%となっており、今後の就労意向のある割合は男性が87.8%、女性が75.5%となっている。また、性別・年齢別にみると、就労意向のない割合は、男性の60～64歳が11.5%、女性の55～59歳が16.8%、60～64歳が27.6%となっている。

#### ▼就労状況と就労意向



#### ▼就労状況と就労意向〔ミドル・シニア/性別〕



▼就労状況と就労意向〔ミドル・シニア〕/性別・年齢別

単位：％

項目	回答者数(人)	就労意向あり			就労意向なし		わからない	無回答	
		何らかの仕事をしたい	今も働いており、今後も働きたい	今後は仕事を辞めたが、今後は何らかの仕事をしたい	仕事はしたいができない	仕事はしない予定である			
ミドル・シニア全体	1,486	75.3	4.7	0.6	2.2	9.3	5.1	2.8	
男性	50～54歳	228	92.1	1.3	0.0	0.9	0.0	3.5	2.2
	55～59歳	195	84.1	2.6	0.0	2.1	2.6	4.6	4.1
	60～64歳	209	78.5	4.3	0.0	1.9	9.6	3.3	2.4
女性	50～54歳	316	76.3	5.7	1.3	2.2	4.7	7.9	1.9
	55～59歳	275	70.2	5.1	0.7	3.3	13.5	5.5	1.8
	60～64歳	228	54.8	8.3	1.3	2.6	25.0	3.1	4.8

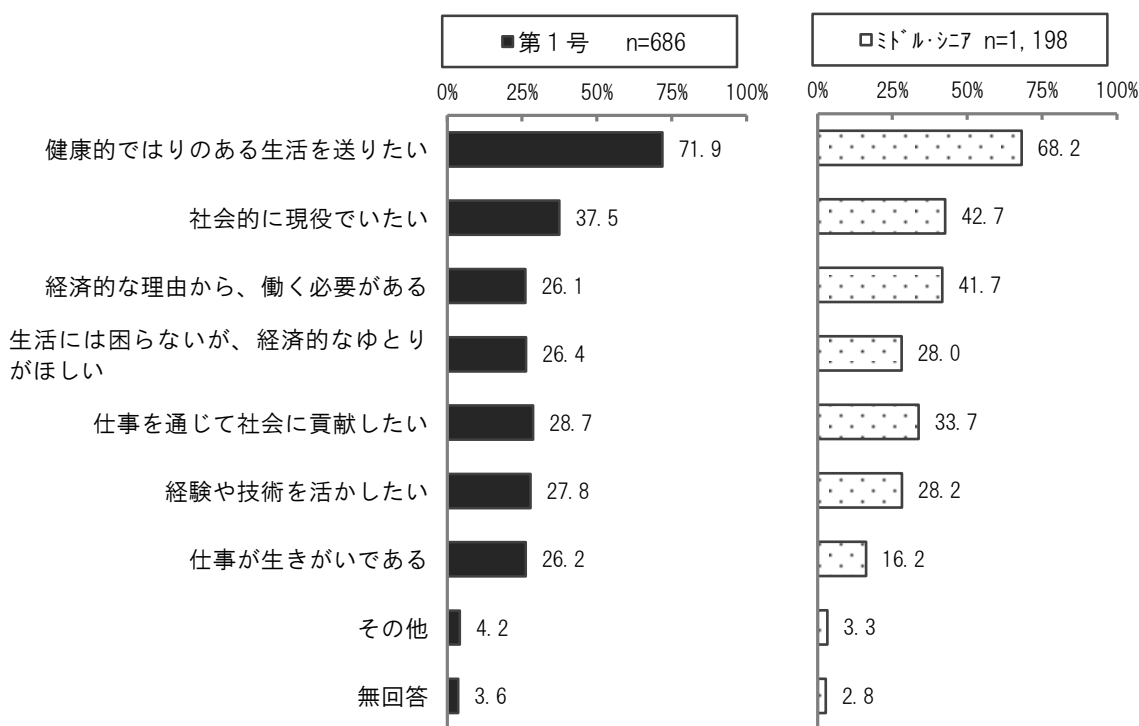
②仕事をしたい（し続けたい）理由〔第1号、ミドル・シニア〕

仕事をしたい（し続けたい）理由は、いずれの対象者も「健康的ではりのある生活を送りたい」が最も高く、それぞれ71.9%、68.2%となっている。次いで「社会的に現役でいたい」が高く、それぞれ37.5%、42.7%となっている。

〔第1号〕は次いで「仕事を通じて社会に貢献したい」が28.7%、〔ミドル・シニア〕は次いで「経済的な理由から、働く必要がある」が41.7%となっている。

「経済的な理由から、働く必要がある」は〔ミドル・シニア〕が10ポイント以上高く、「仕事が生きがいである」は〔第1号〕が10.0ポイント高くなっている。

▼仕事をしたい（し続けたい）理由（複数回答）

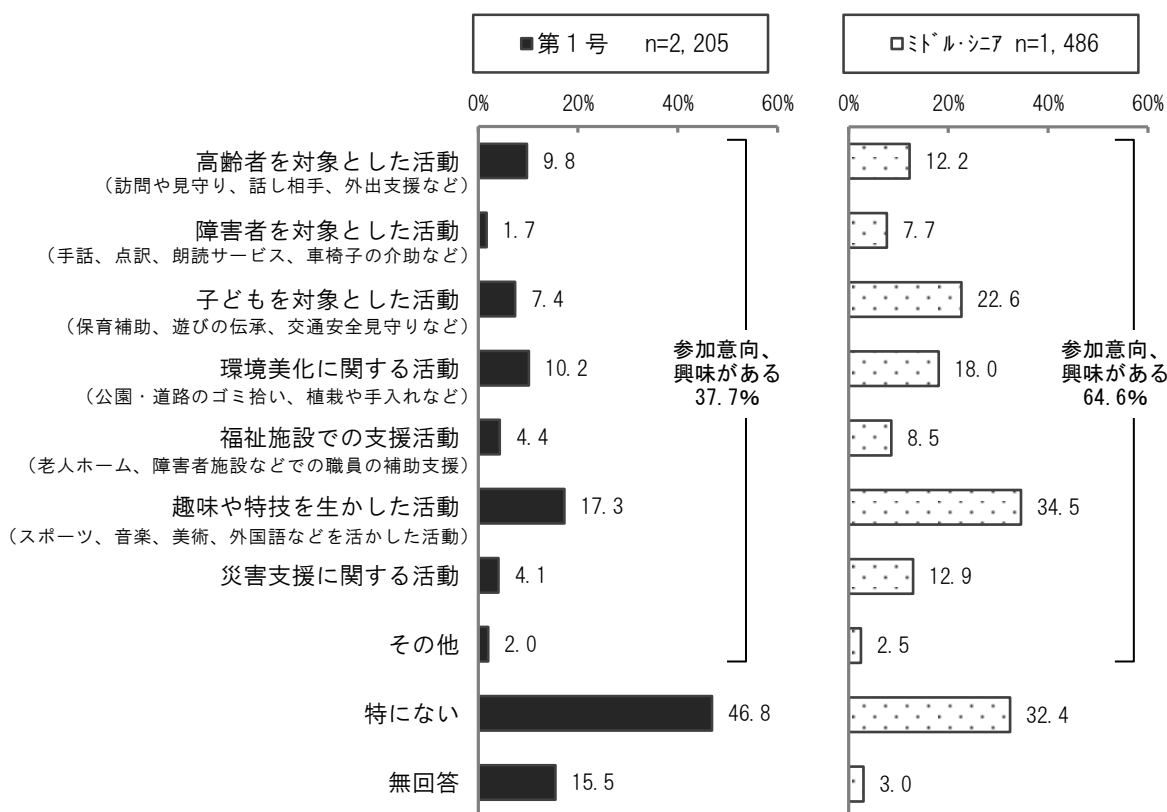


## (8) 地域とのつながり・地域活動について

### ①参加してみたい、興味があるボランティア活動〔第1号、ミドル・シニア〕

ボランティア活動に参加してみたい、興味がある割合は、〔第1号〕が37.7%、〔ミドル・シニア〕が64.6%となっている。〔第1号〕は「趣味や特技を生かした活動」が17.3%、「環境美化に関する活動」が10.2%、「高齢者を対象とした活動」が9.8%となっている。〔ミドル・シニア〕は「趣味や特技を生かした活動」が34.5%、「子どもを対象とした活動」が22.6%、「環境美化に関する活動」が18.0%となっている。

#### ▼参加したい、興味があるボランティア活動（複数回答）

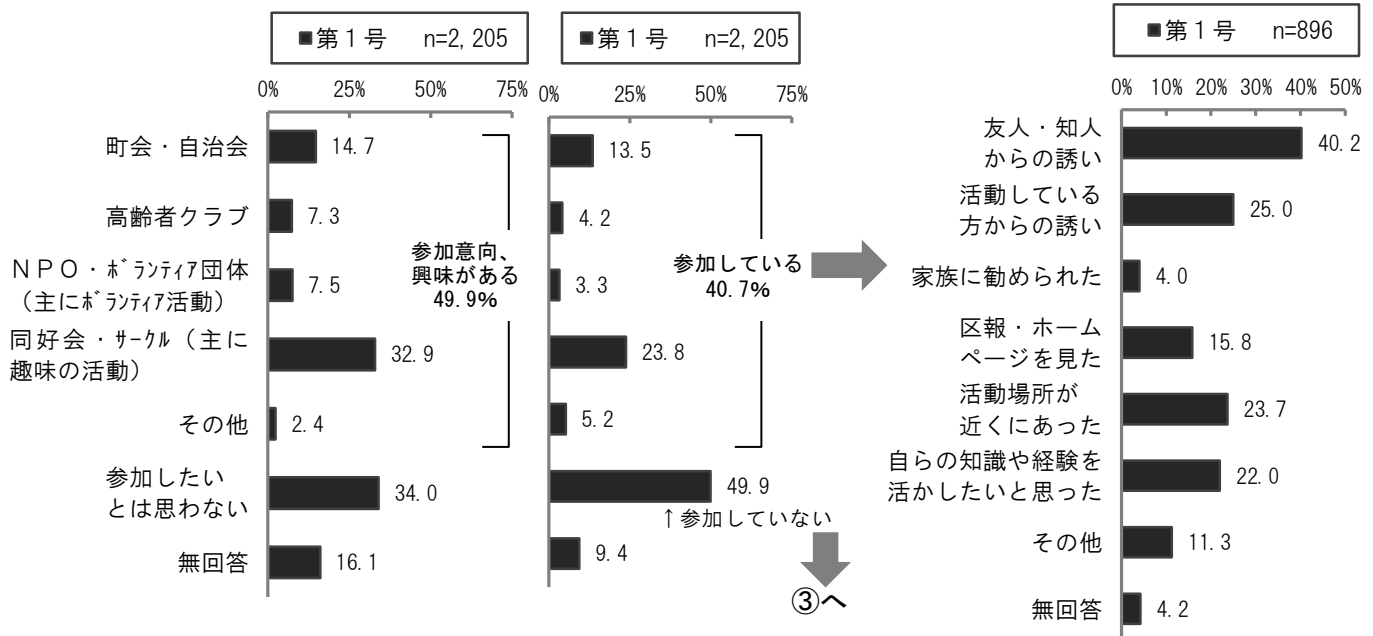


※「参加意向、興味がある」=100%－「特にない」－「無回答」

## ②-1 参加意向がある、又参加している活動団体やグループ〔第1号〕

〔第1号〕の参加意向、興味がある割合は49.9%で、「同好会・サークル」が32.9%、「町会・自治会」が14.7%となっている。現在参加している割合は40.7%で、「同好会・サークル」が23.8%、「町会・自治会」が13.5%となっている。活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が40.2%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が25.0%、「活動場所が近くにあった」が23.7%となっている。

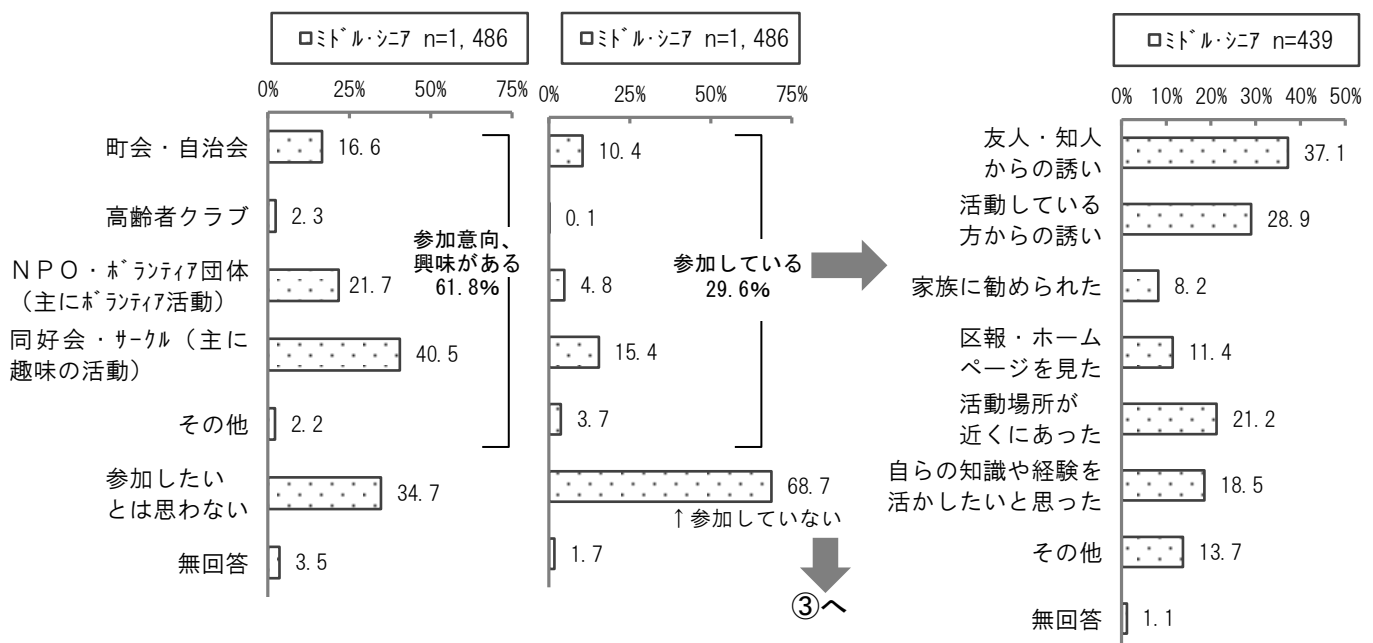
▼参加したい活動団体等（複数回答） ▼参加している活動団体等（複数回答） ▼活動を始めたきっかけ（複数回答）



## ②-2 参加意向がある、又参加している活動団体やグループ〔ミドル・シニア〕

〔ミドル・シニア〕の参加意向、興味がある割合は61.8%で、「同好会・サークル」が40.5%、「NPO・ボランティア団体」が21.7%となっている。現在参加している割合は29.6%で、「同好会・サークル」が15.4%、「町会・自治会」が10.4%となっている。活動を始めたきっかけは、「友人・知人からの誘い」が37.1%で最も高く、次いで「活動している方からの誘い」が28.9%、「活動場所が近くにあった」が21.2%となっている。

▼参加したい活動団体等（複数回答） ▼参加している活動団体等（複数回答） ▼活動を始めたきっかけ（複数回答）



※「参加したい」=100%－「参加したいとは思わない」－「無回答」

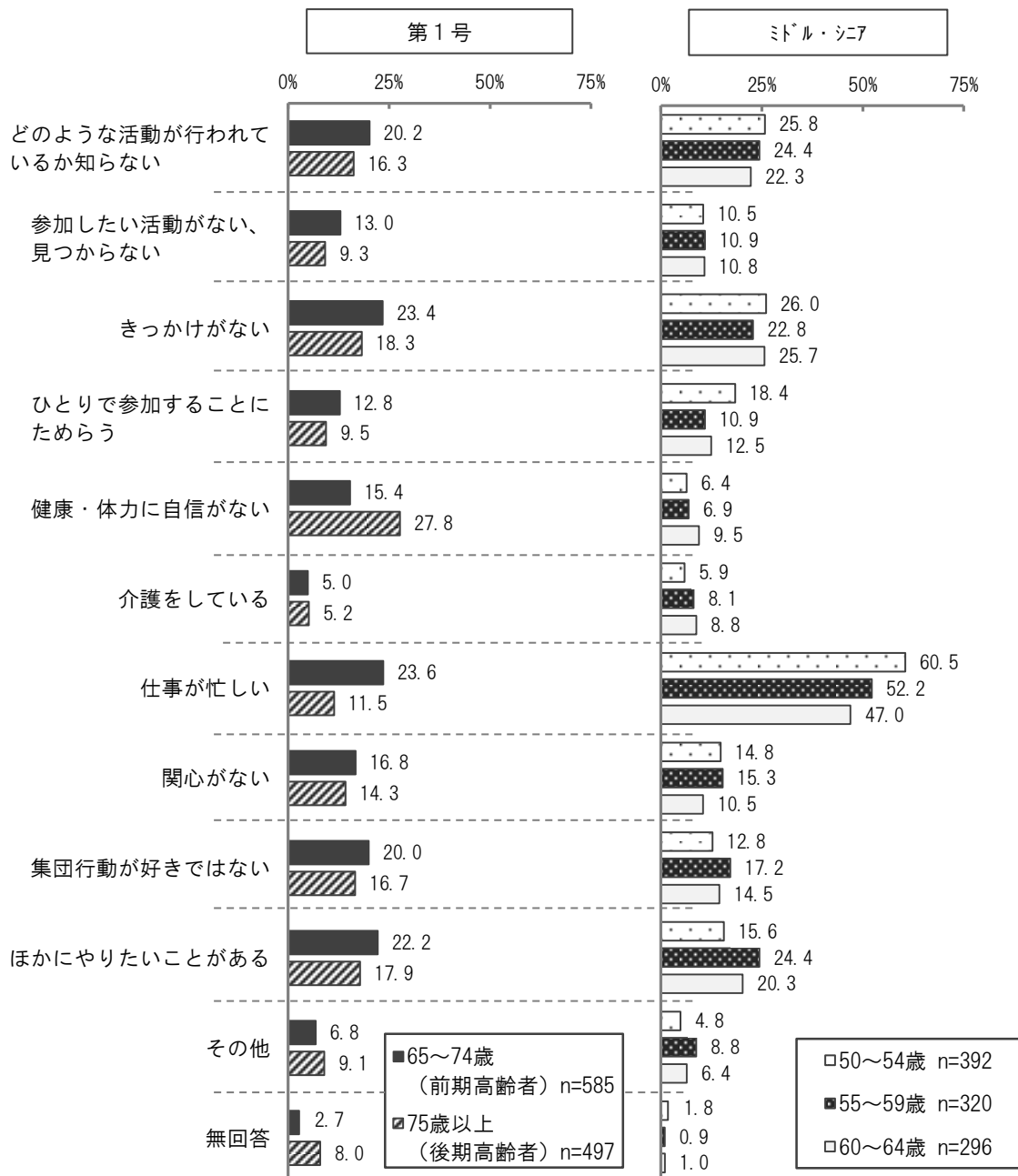
※「参加している」=100%－「参加していない」－「無回答」

### ③現在活動団体やグループに参加していない理由〔第1号、ミドル・シニア〕

活動団体等に参加していない理由は、〔第1号〕の65～74歳（前期高齢者）は「仕事が忙しい」が23.6%で最も高く、次いで「きっかけがない」が23.4%、「ほかにやりたいことがある」が22.2%となっている。75歳以上（後期高齢者）は「健康・体力に自信がない」が27.8%で最も高く、次いで「きっかけがない」が18.3%、「ほかにやりたいことがある」が17.9%となっている。

〔ミドル・シニア〕はいずれの年齢区分も「仕事が忙しい」が最も高く、それぞれ60.5%、52.2%、47.0%となっている。50～54歳、60～64歳は次いで「きっかけがない」がそれぞれ26.0%、22.8%、55～59歳は次いで「どのような活動が行われているか知らない」「ほかにやりたいことがある」がともに24.4%となっている。

▼活動団体等に参加していない理由（複数回答）



## (9) 災害について

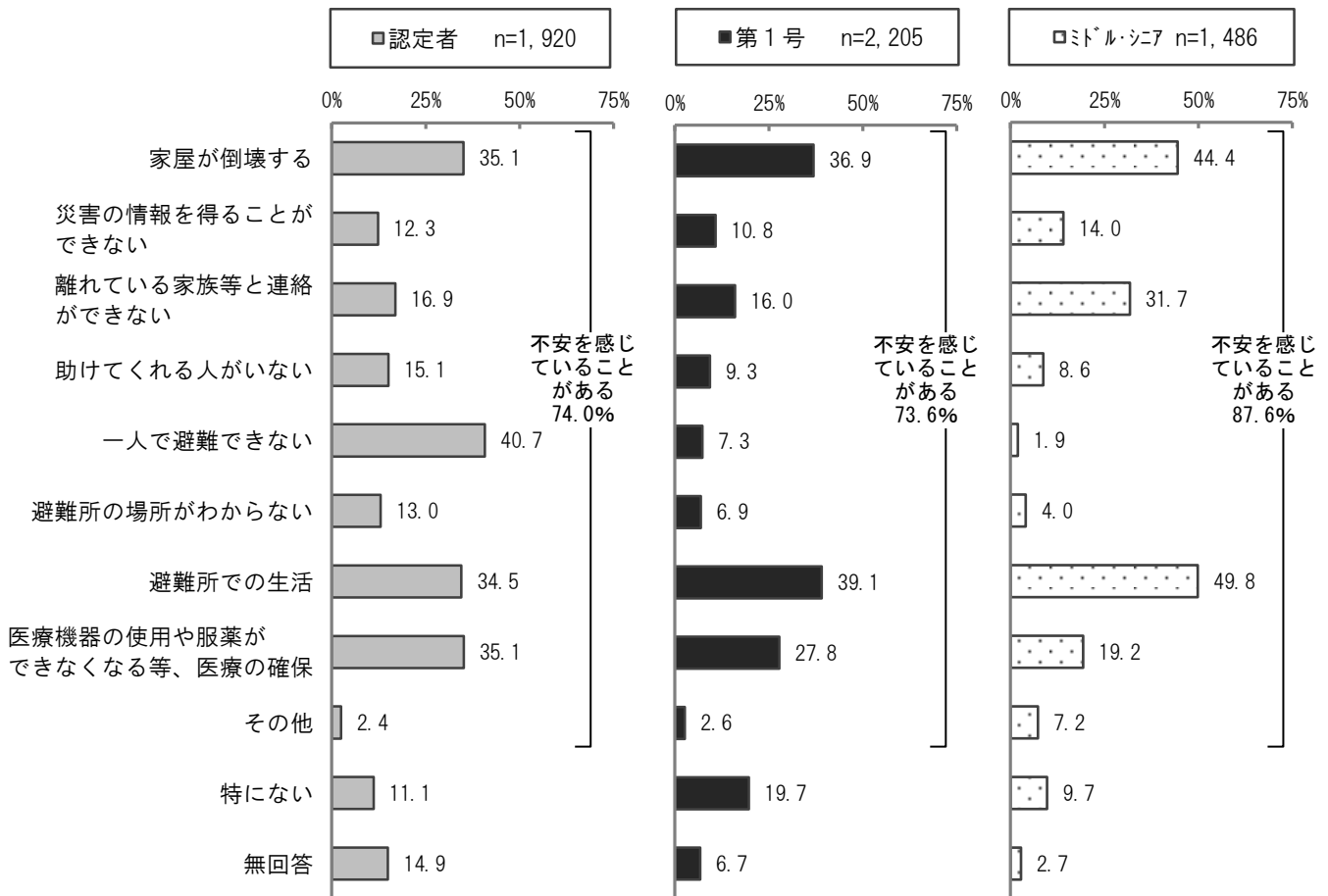
### ①災害に関して不安に感じていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害に関して不安に感じていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が87.6%で最も高く、次いで〔認定者〕が74.0%、〔第1号〕が73.6%となっている。

〔認定者〕は「一人で避難できない」が40.7%で最も高く、次いで「家屋が倒壊する」「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」がともに35.1%、「避難所での生活」が34.5%となっている。

〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は「避難所での生活」が最も高く、それぞれ39.1%、49.8%となっている。次いで「家屋が倒壊する」がそれぞれ36.9%、44.4%となっている。3番目に高いのは、〔第1号〕は「医療機器の使用や服薬ができなくなる等、医療の確保」が27.8%、〔ミドル・シニア〕は「離れている家族等と連絡ができない」が31.7%となっている。

▼災害に関して不安に感じていること（複数回答）



※「不安を感じていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

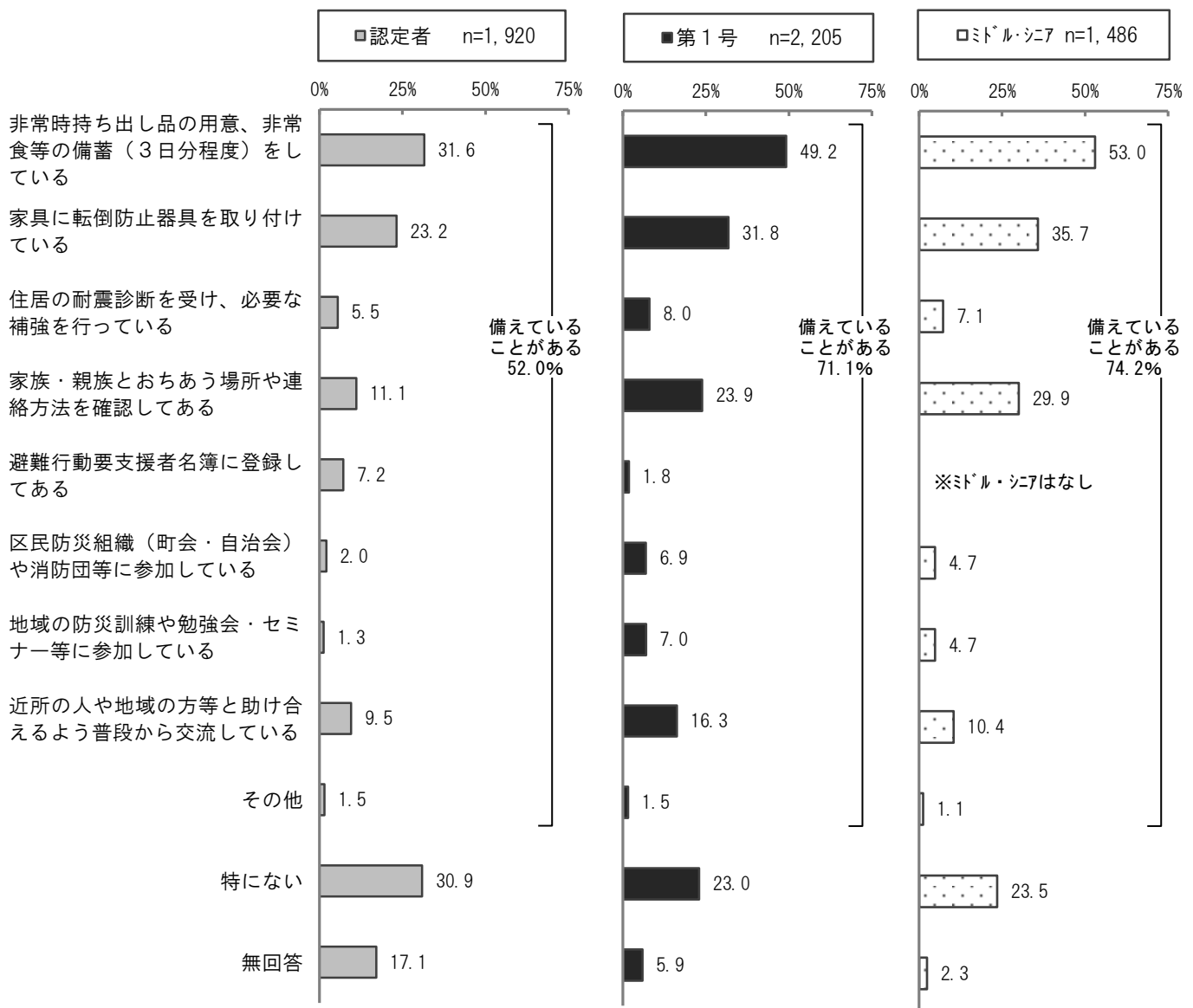
## ②災害発生時に備えて行っていること〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

災害発生時に備えて行っていることがある割合は、〔ミドル・シニア〕が74.2%で最も高く、次いで〔第1号〕が71.1%、〔認定者〕が52.0%となっており、〔認定者〕は〔第1号〕〔ミドル・シニア〕に比べて約20ポイント低くなっている。

いずれの対象者も「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が最も高く、それぞれ31.6%、49.2%、53.0%となっており、次いで「家具に転倒防止器具を取り付けている」が高く、それぞれ23.2%、31.8%、35.7%となっている。次いで「家族・親族とおちあう場所や連絡方法を確認してある」が高く、それぞれ11.1%、23.9%、29.9%となっている。

一方、「特になし」割合は、〔認定者〕は30.9%、〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は20%を超えている。

### ▼災害発生時に備えて行っていること（複数回答）



※「備えていることがある」=100%－「特になし」－「無回答」

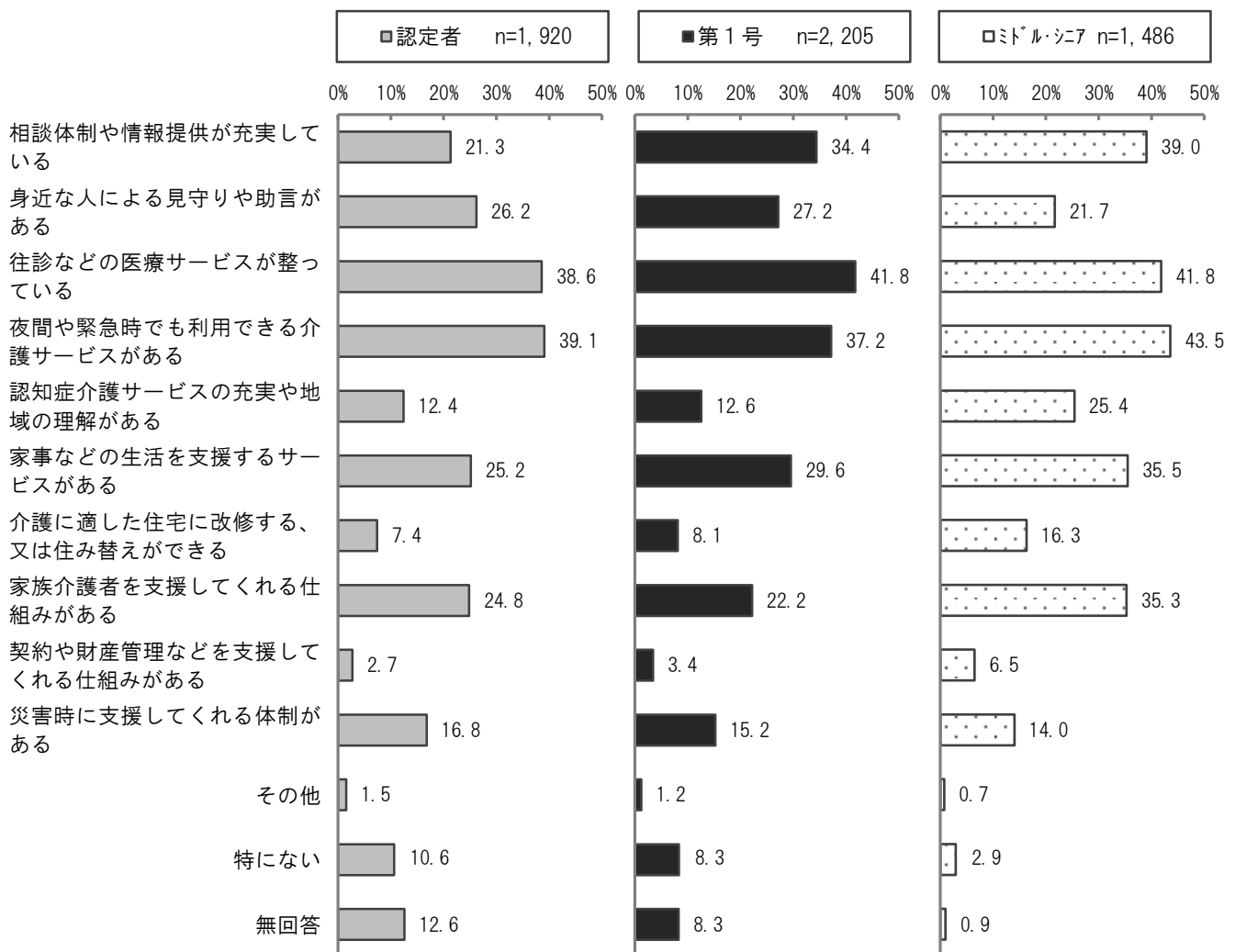
## (10) 介護等について

### ①地域で暮らし続けるために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと考えることは、いずれの対象者も「往診などの医療サービスが整っている」「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が上位2項目となっている。3番目に高いのは、〔認定者〕は「身近な人による見守りや助言がある」が26.2%となっている。〔第1号〕〔ミドル・シニア〕は「相談体制や情報提供が充実している」で、それぞれ34.4%、39.0%となっている。

〔ミドル・シニア〕は「家族介護者を支援してくれる仕組みがある」「認知症介護サービスの充実や地域の理解がある」が他の対象者より10ポイント以上高くなっている。

▼地域で暮らし続けるために必要なこと（3つ以内複数回答）





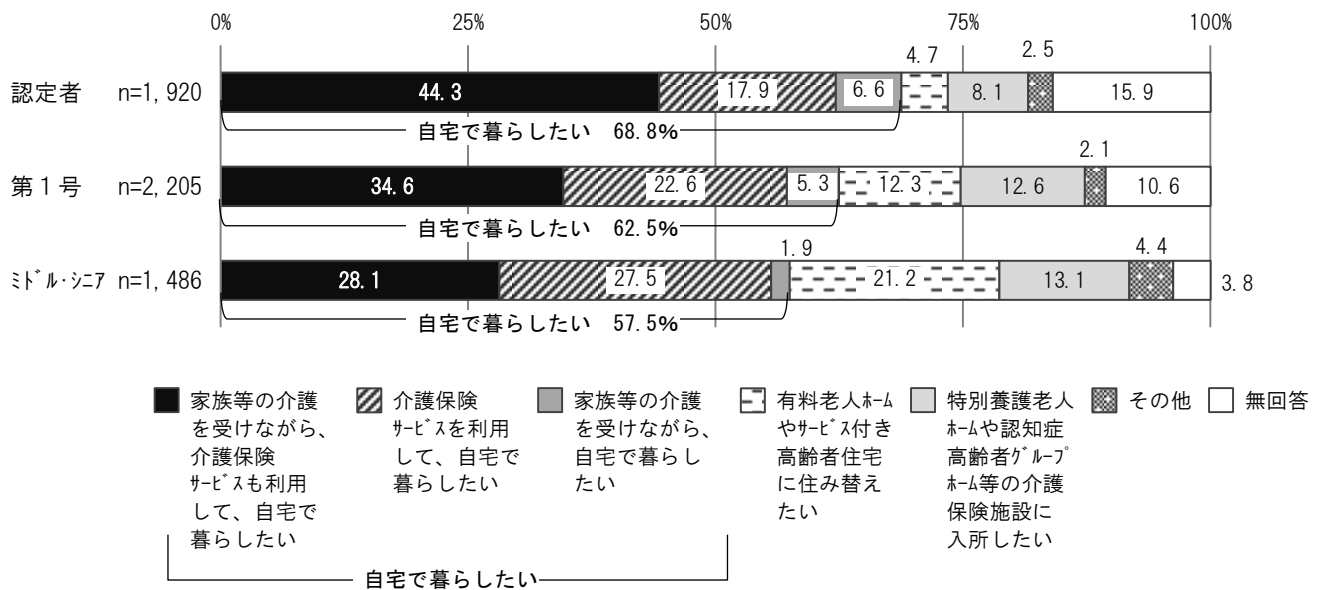
②今後希望する暮らし方〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

今後希望する暮らし方は、「自宅で暮らしたい」割合は〔認定者〕が68.8%で最も高く、次いで〔第1号〕が62.5%、〔ミドル・シニア〕が57.5%となっている。

いずれの対象者も「家族等の介護を受けながら、介護保険サービスも利用して、自宅で暮らしたい」が最も高く、それぞれ44.3%、34.6%、28.1%となっており、次いで「介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が高く、それぞれ17.9%、22.6%、27.5%となっている。

〔ミドル・シニア〕は「有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅に住み替えたい」が21.2%となっており、他の対象者に比べて高くなっている。

▼今後希望する暮らし方

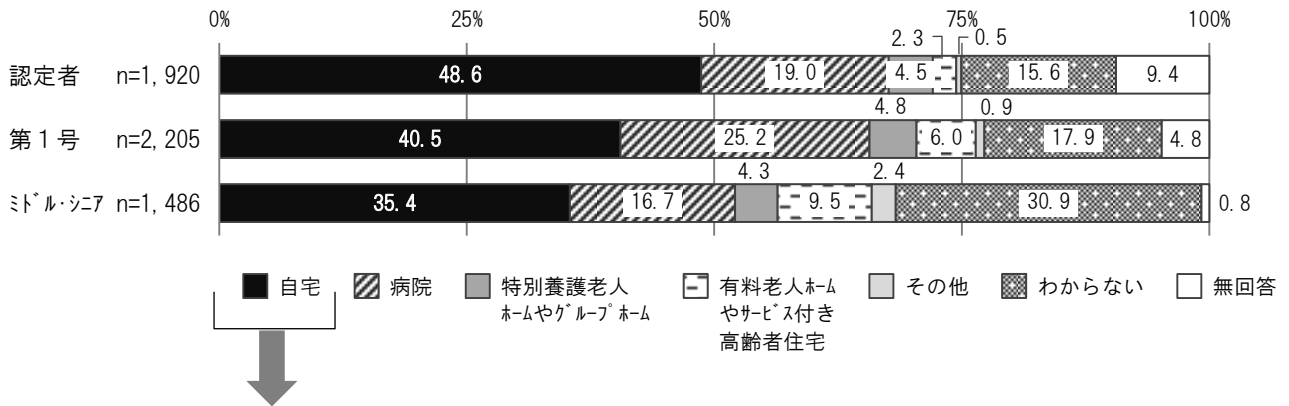


### ③-1 終末期を迎える場所の希望〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

終末期を迎える場所の希望は、いずれの対象者も「自宅」が最も高く、それぞれ48.6%、40.5%、35.4%となっている。次いで「病院」が高く、それぞれ19.0%、25.2%、16.7%となっている。

〔ミドル・シニア〕は「わからない」が30.9%で、他の対象者に比べて高くなっている。

#### ▼終末期をどこで迎えたいか



### ③-2 自宅で最期まで療養するために必要なこと〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

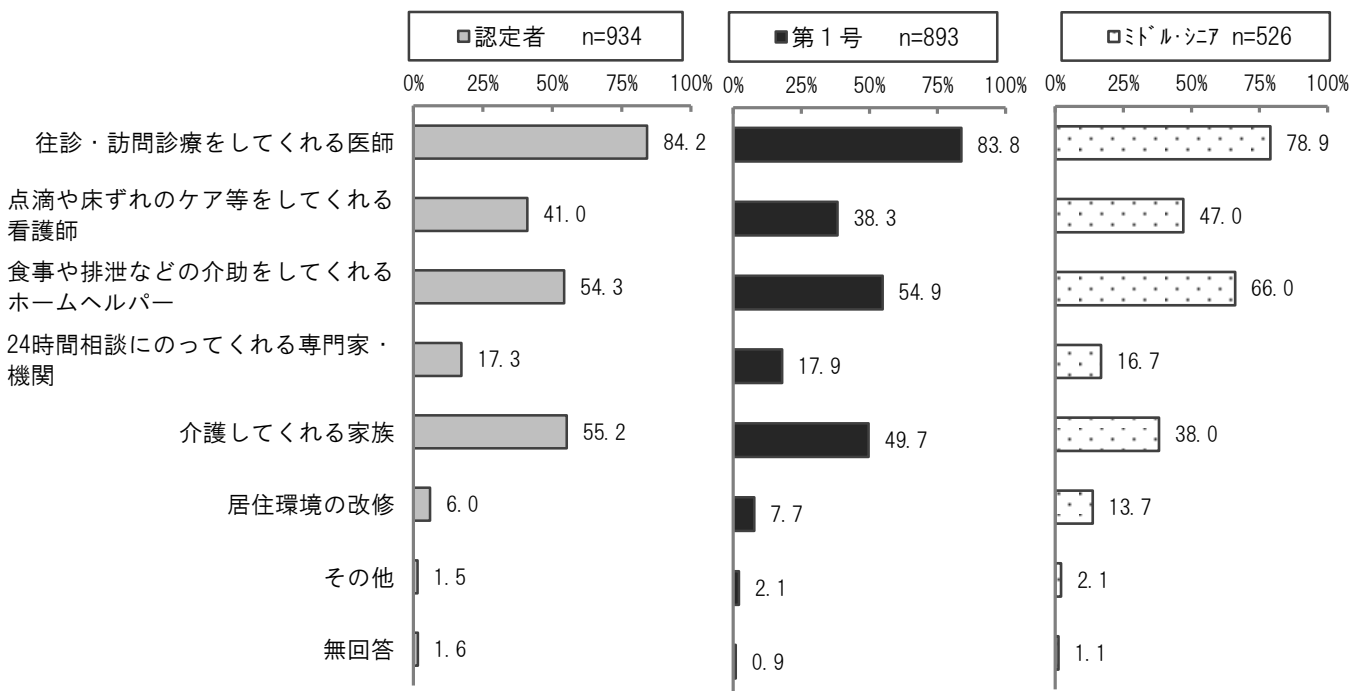
終末期を「自宅」で迎えたいと思う人が、自宅で最期まで療養するために必要だと思うことは、いずれの対象者も「往診・訪問診療をしてくれる医師」が最も高く、それぞれ84.2%、83.8%、78.9%となっている。

〔認定者〕は次いで「介護してくれる家族」が55.2%、「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.3%となっている。

〔第1号〕は次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が54.9%、「介護してくれる家族」が49.7%となっている。

〔ミドル・シニア〕は次いで「食事や排泄などの介助をしてくれるホームヘルパー」が66.0%、「点滴や床ずれのケア等をしてくれる看護師」が47.0%となっている。

#### ▼自宅で最期まで療養するために必要なこと（3つ以内複数回答）



#### ④高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと

〔認定者、第1号、ミドル・シニア〕

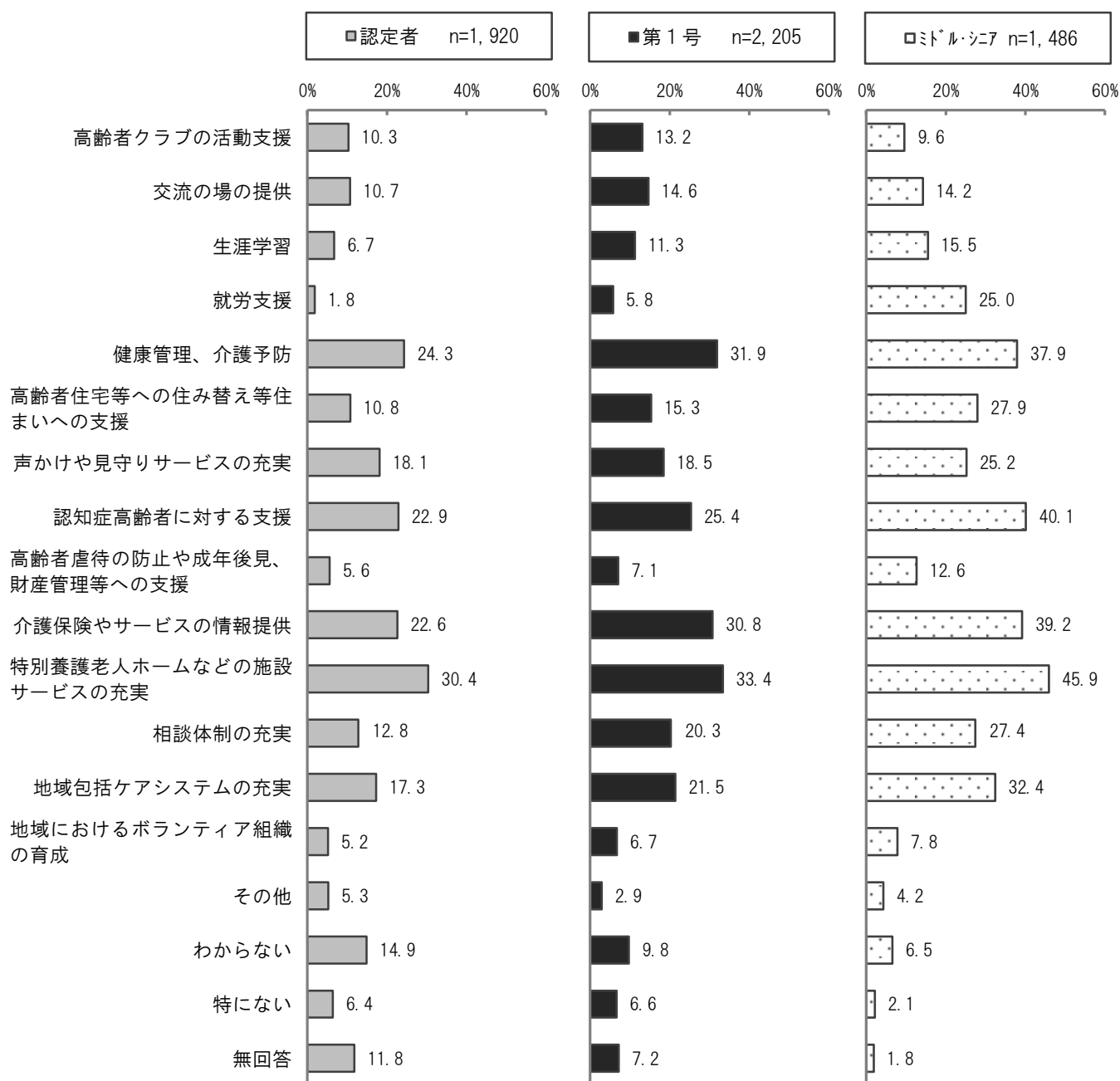
高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいことは、いずれの対象者も「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が最も高く、それぞれ 30.4%、33.4%、45.9%となっている。

〔認定者〕は次いで「健康管理、介護予防」が 24.3%、「認知症高齢者に対する支援」が 22.9%となっている。

〔第1号〕は次いで「健康管理、介護予防」が 31.9%、「介護保険やサービスの提供」が 30.8%となっている。

〔ミドル・シニア〕は次いで「認知症高齢者に対する支援」が 40.1%、「介護保険やサービスの提供」が 39.2%となっている。「健康管理、介護予防」「地域包括ケアシステムの充実」も 30%を超えている。

▼高齢者施策、介護保険事業について、区に力を入れてほしいこと（複数回答）



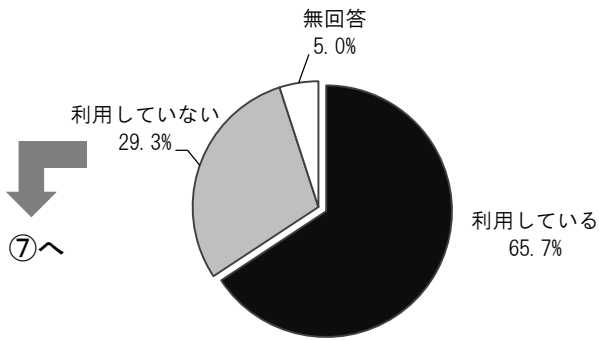
### ⑤介護保険サービスの利用状況と介護保険料のあり方〔認定者〕

〔認定者〕の介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が65.7%、「利用していない」が29.3%となっている。

利用者の介護保険サービスと介護保険料のあり方についての考えは、「保険料も介護保険サービスも今ぐらいが妥当である」が42.8%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が23.0%となっている。

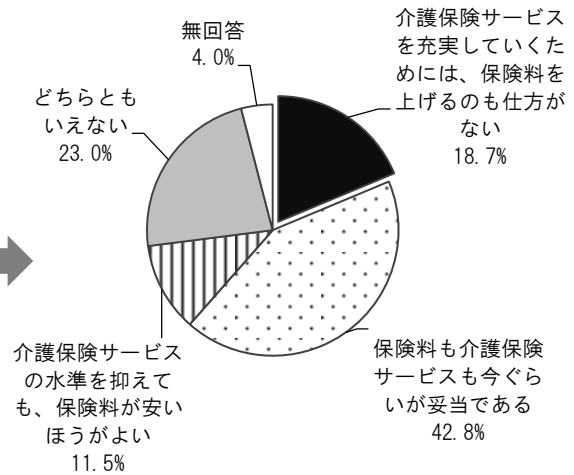
▼介護保険サービスの利用状況

認定者 n=1,920



▼介護保険料のあり方

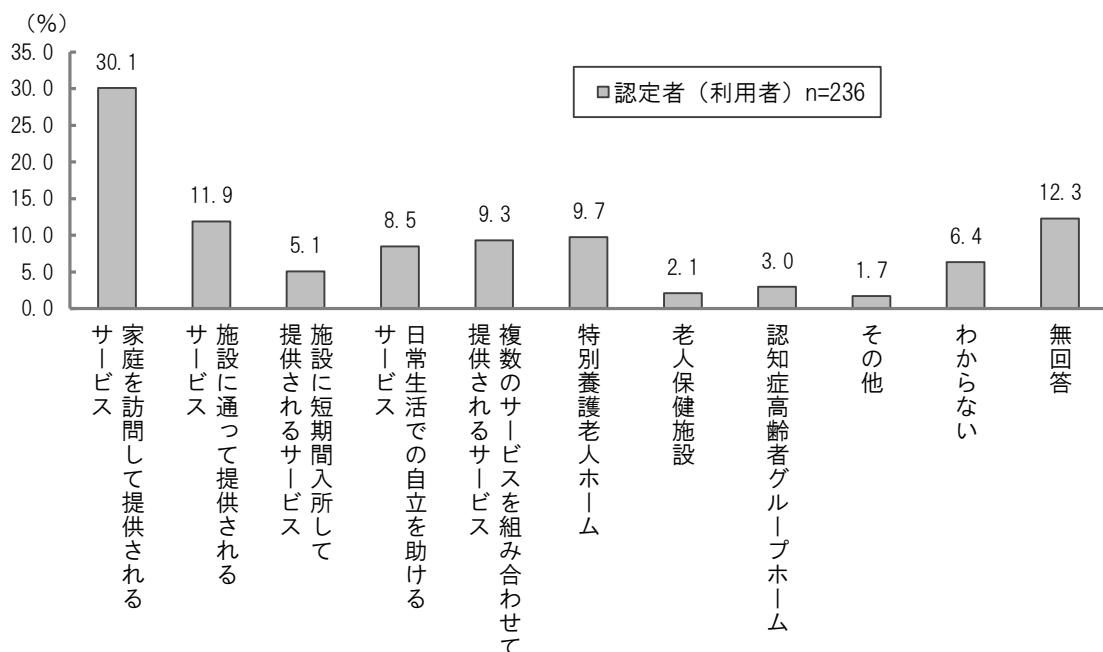
認定者（利用者） n=1,262



### ⑥介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス〔認定者（利用者）〕

介護保険サービスを利用している〔認定者〕のうち、「介護保険サービスを充実していくためには、保険料を上げるのも仕方がない」と答えた人が、介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービスは、「家庭を訪問して提供されるサービス」が30.1%で最も高く、次いで「施設に通って提供されるサービス」が11.9%、「特別養護老人ホーム」が9.7%となっている。

▼介護保険料が上がる場合に充実してほしいサービス



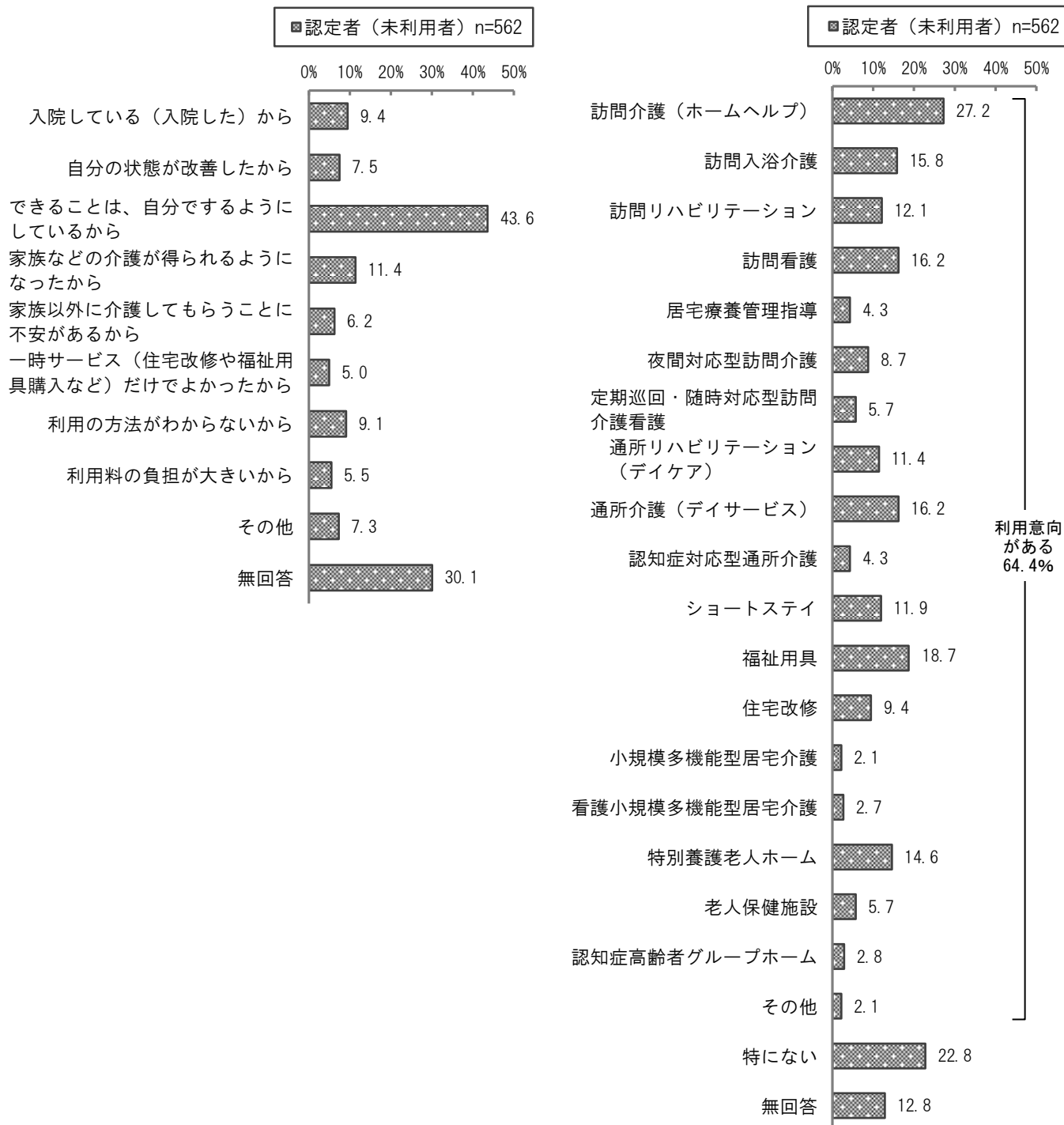
⑦介護保険サービスを利用していない理由、今後の利用意向〔認定者（未利用者）〕

〔認定者〕の介護保険サービスを利用していない理由は、「できることは、自分でするようにしているから」が43.6%で最も高く、次いで「家族などの介護が得られるようになったから」が11.4%となっている。

今後の利用意向がある割合は64.4%で、利用したい介護保険サービスは、「訪問介護」が27.2%で最も高く、次いで「福祉用具」が18.7%、「訪問看護」「通所介護」がともに16.2%となっている。

▼介護保険サービスを利用していない理由（複数回答）

▼今後利用したい介護保険サービス（複数回答）



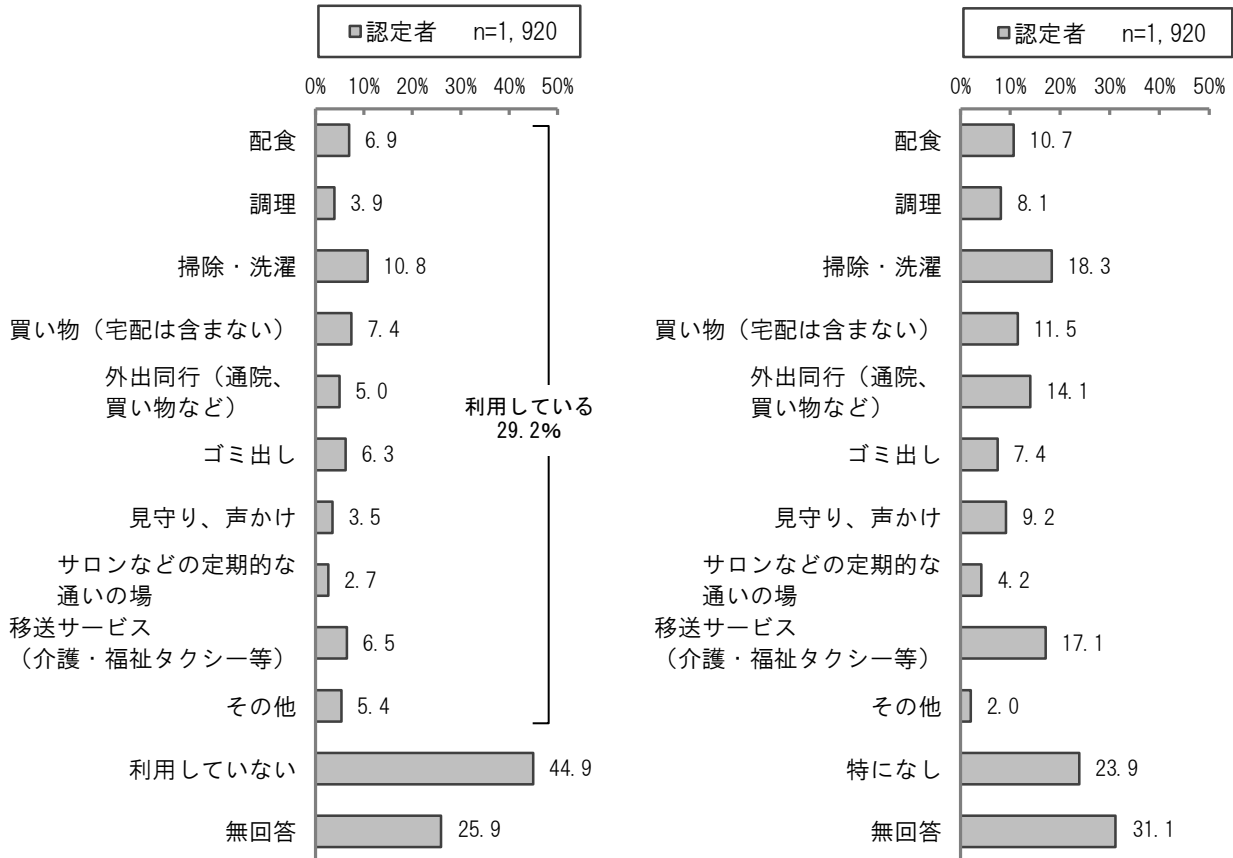
※「利用意向がある」=100%－「特にない」－「無回答」

### ⑧介護保険サービス以外の支援等〔認定者〕

〔認定者〕が介護保険サービス以外の支援・サービスを利用している割合は29.2%で、「掃除・洗濯」が10.8%が最も高く、次いで「買い物」が7.4%、「配食」が6.9%となっている。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「掃除・洗濯」が18.3%で最も高く、次いで「移送サービス」が17.1%、「外出同行」が14.1%となっている。

▼介護保険サービス以外で利用している支援等（複数回答）▼在宅生活継続に必要な支援等（3つ以内複数回答）



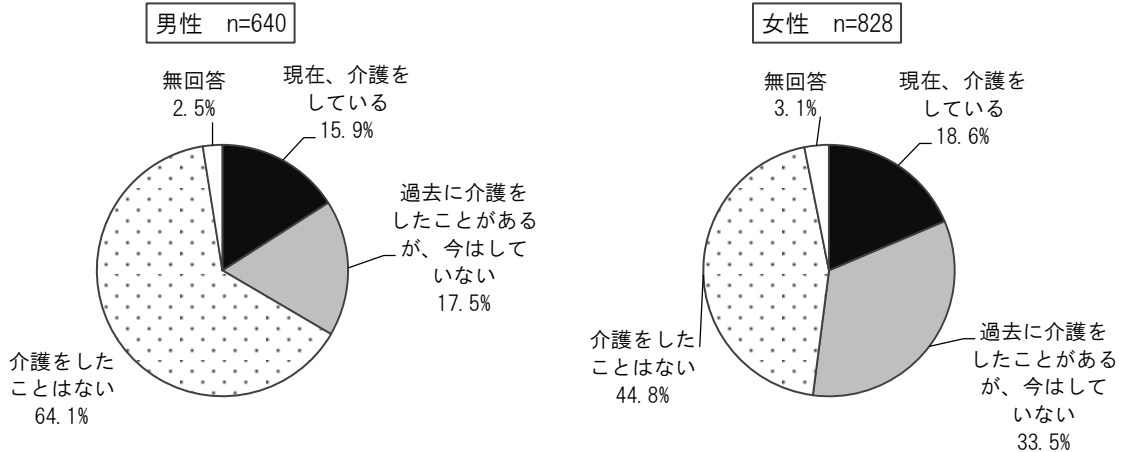
※「利用している」=100%－「利用していない」－「無回答」

## (11) 介護者及び介護の状況について

### ① 介護経験の有無〔ミドル・シニア〕

〔ミドル・シニア〕の介護経験を性別にみると、「現在、介護をしている」割合は男性が15.9%、女性が18.6%、「過去に介護をしたことがあるが、今はしていない」割合は男性が17.5%、女性が33.5%となっており、介護経験のある割合は男性が33.4%、女性が52.1%となっている。

#### ▼ 介護経験の有無/性別

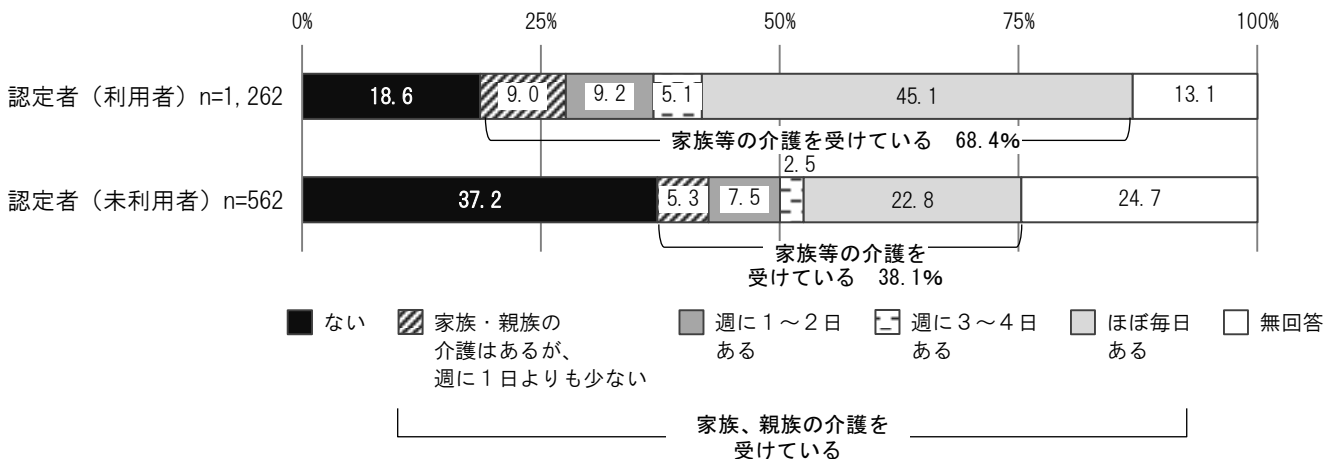


### ② 家族又は親族の介護の有無〔認定者〕

家族又は親族の介護を受けている割合を介護保険サービスの利用状況別にみると、〔認定者（利用者）〕が68.4%、〔認定者（未利用者）〕が38.1%となっており、〔認定者（利用者）〕は「ほぼ毎日ある」が45.1%となっている。

家族又は親族の介護が「ない」割合は、〔認定者（利用者）〕が18.6%に対して、〔認定者（未利用者）〕が37.2%となっている。

#### ▼ 家族又は親族の介護を受けているか/介護保険サービス利用状況別

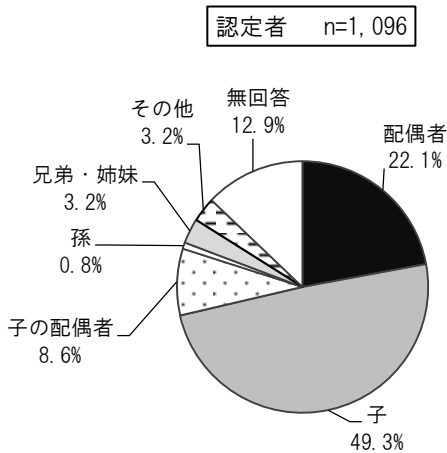


③へ

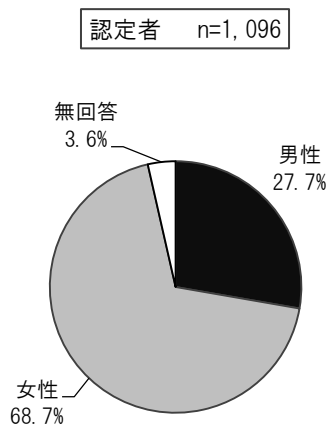
### ③ 主な介護者の属性〔認定者〕

主な介護者は、「子」が49.3%で最も高く、次いで「配偶者」が22.1%となっている。性別は、「女性」が68.7%、「男性」が27.7%となっている。年齢は、「60代」が34.6%で最も高く、次いで「50代」が25.0%、「70代」が15.3%となっている。

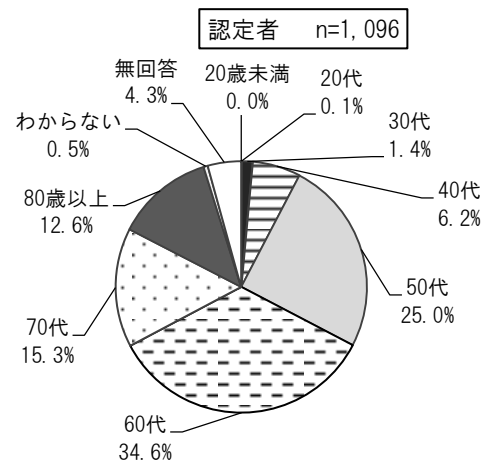
▼主な介護者



▼主な介護者の性別



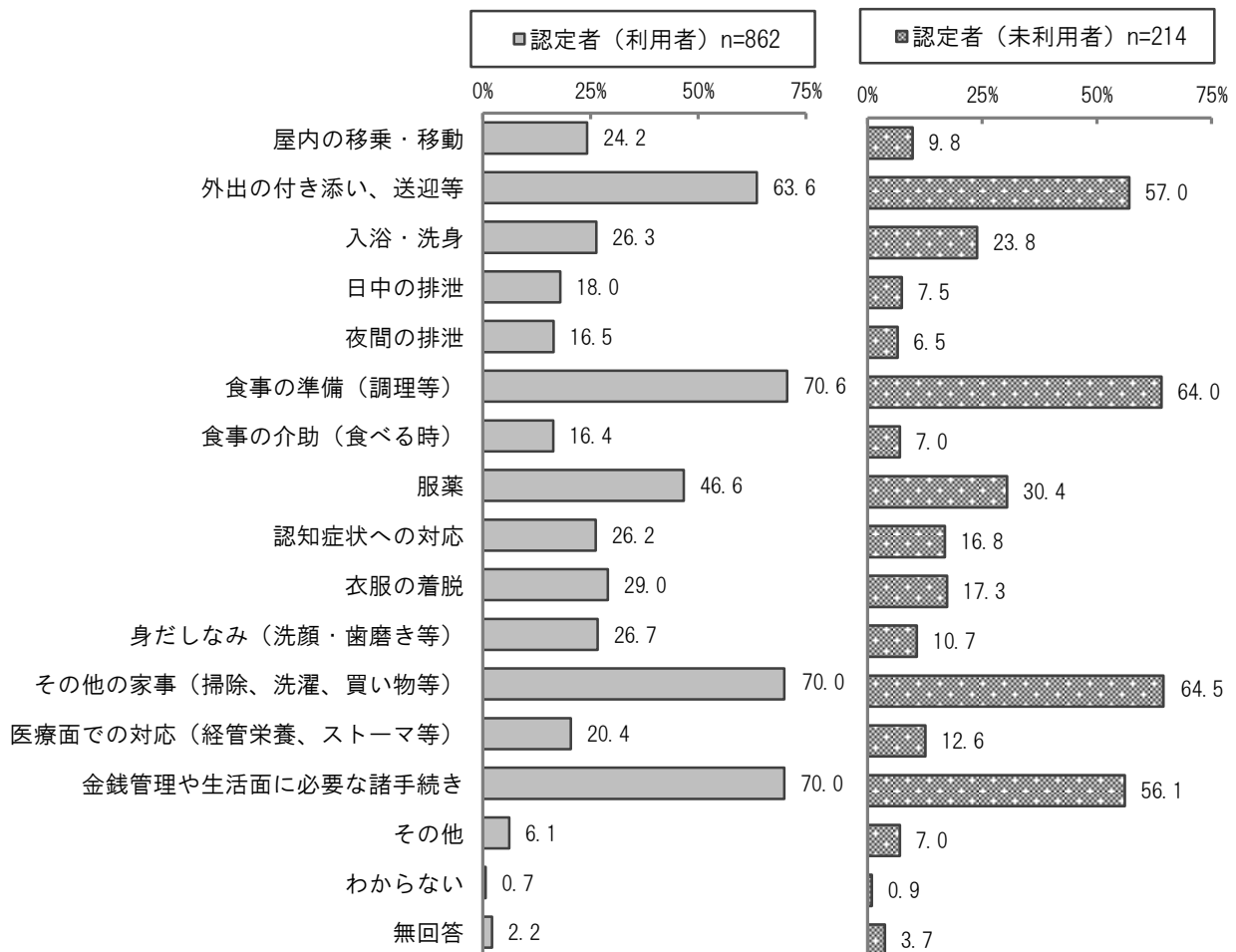
▼主な介護者の年齢



### ④ 主な介護者が行っている介護等〔認定者〕

主な介護者が行っている介護等を介護保険サービスの利用状況別にみると、いずれも「食事の準備」「その他の家事」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「外出の付き添い、送迎等」が上位となっている。〔認定者（利用者）〕の「服薬」「身だしなみ」「屋内の移乗・移動」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「衣服の着脱」「日中の排泄」の割合は〔認定者（未利用者）〕より10ポイントを超えて高くなっている。

▼主な介護者が行っている介護等（複数回答）/介護保険サービス利用状況別

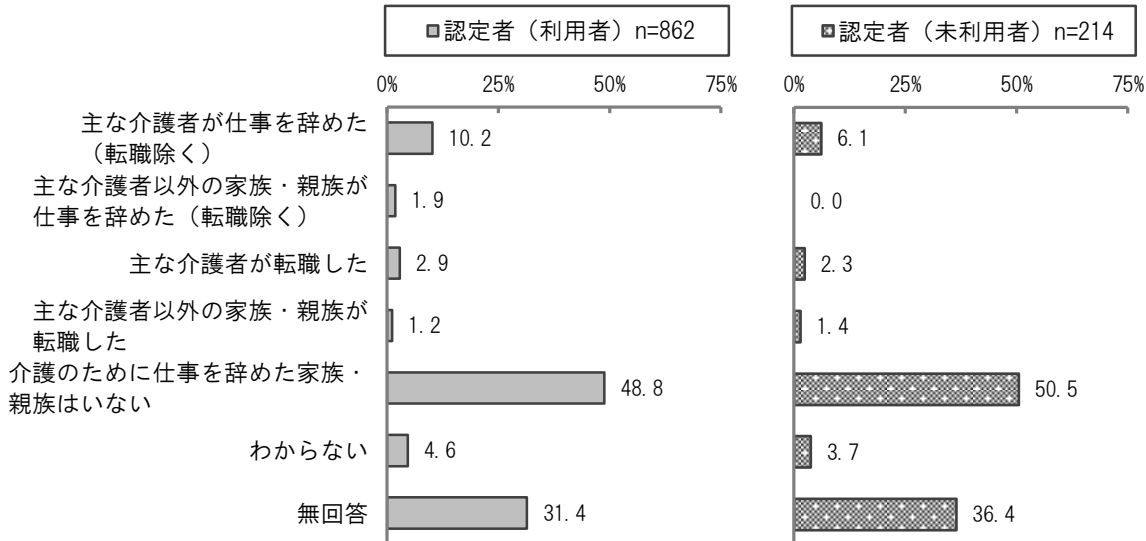




### ⑤ 家族や親族の中で介護のために過去に離職・転職した人の有無〔認定者〕

家族や親族の中で介護のために過去に離職・転職した人の有無を介護保険サービスの利用状況別にみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」がそれぞれ 48.8%、50.5%となっている。

▼家族や親族の介護離職の有無（複数回答）/介護保険サービス利用状況別



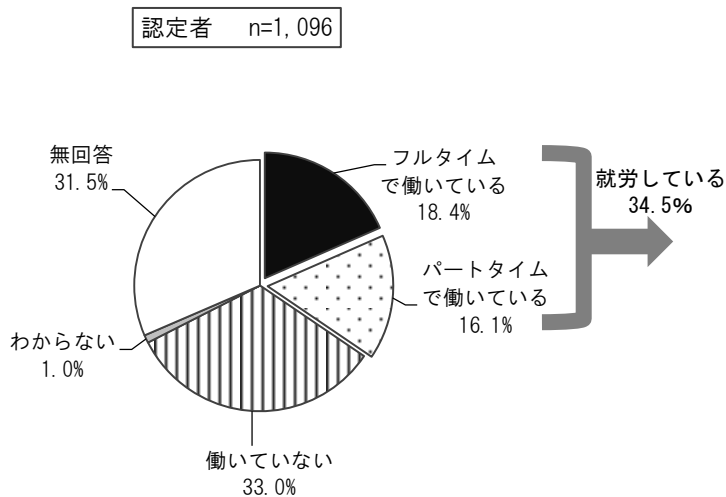
### ⑥ 主な介護者の就業状況〔認定者〕

主な介護者の就業状況は、「働いていない」が 33.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 18.4%、「パートタイムで働いている」が 16.1%となっている。

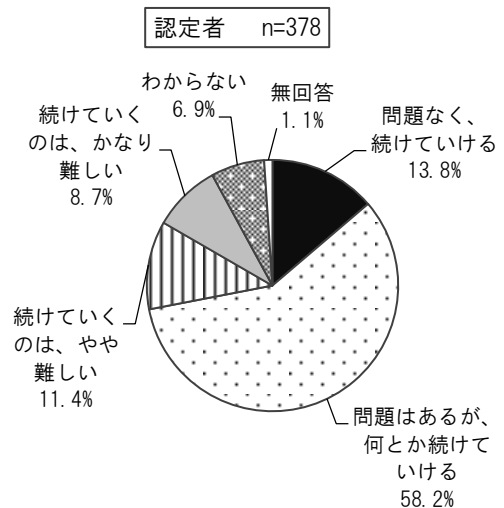
「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」人の今後の就労継続の可能性は、「問題はあるが、何とか続けていける」が 58.2%で最も高く、次いで「問題なく続けていける」が 13.8%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.4%となっている。

「問題はあるが、何とか続けていける」「問題なく続けていける」を合わせると 72.0%となっている。

▼主な介護者の勤務形態



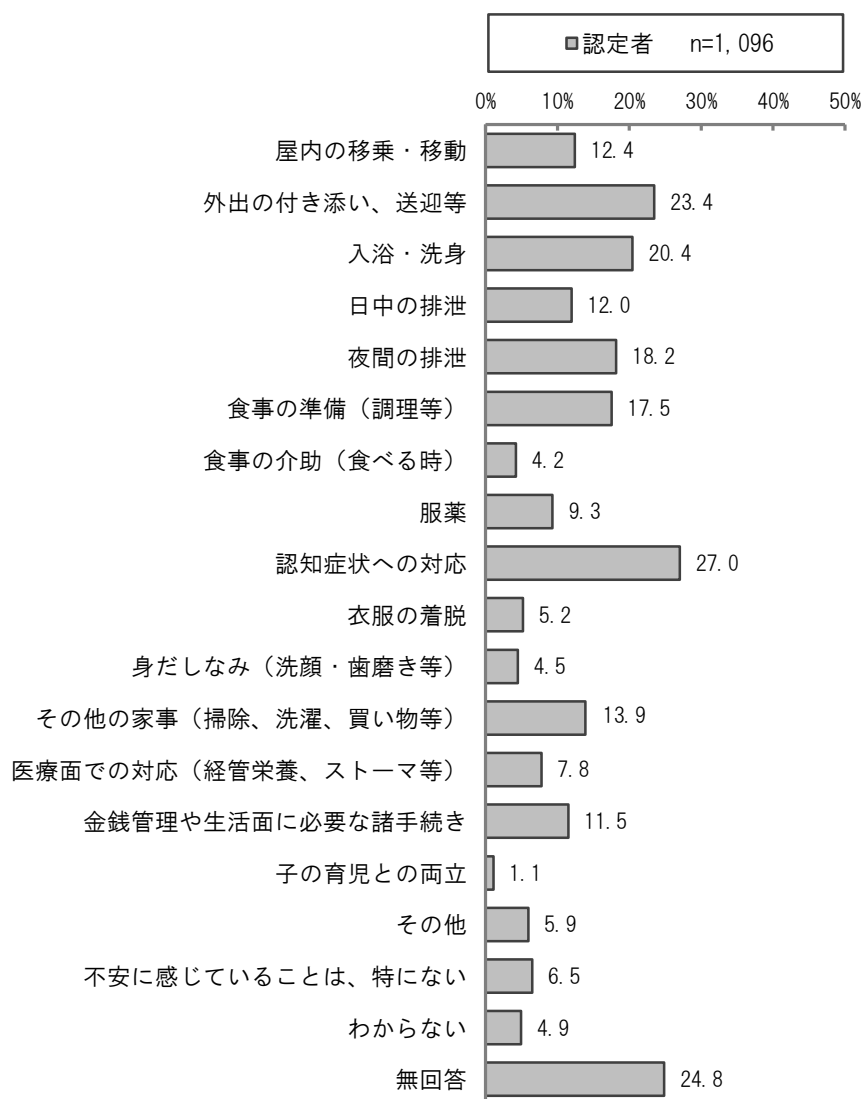
▼今後の就労継続可能性



### ⑦主な介護者が不安に感じる介護等〔認定者〕

主な介護者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が27.0%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が23.4%、「入浴・洗身」が20.4%となっている。

▼主な介護者が不安に感じる介護等（3つ以内複数回答）



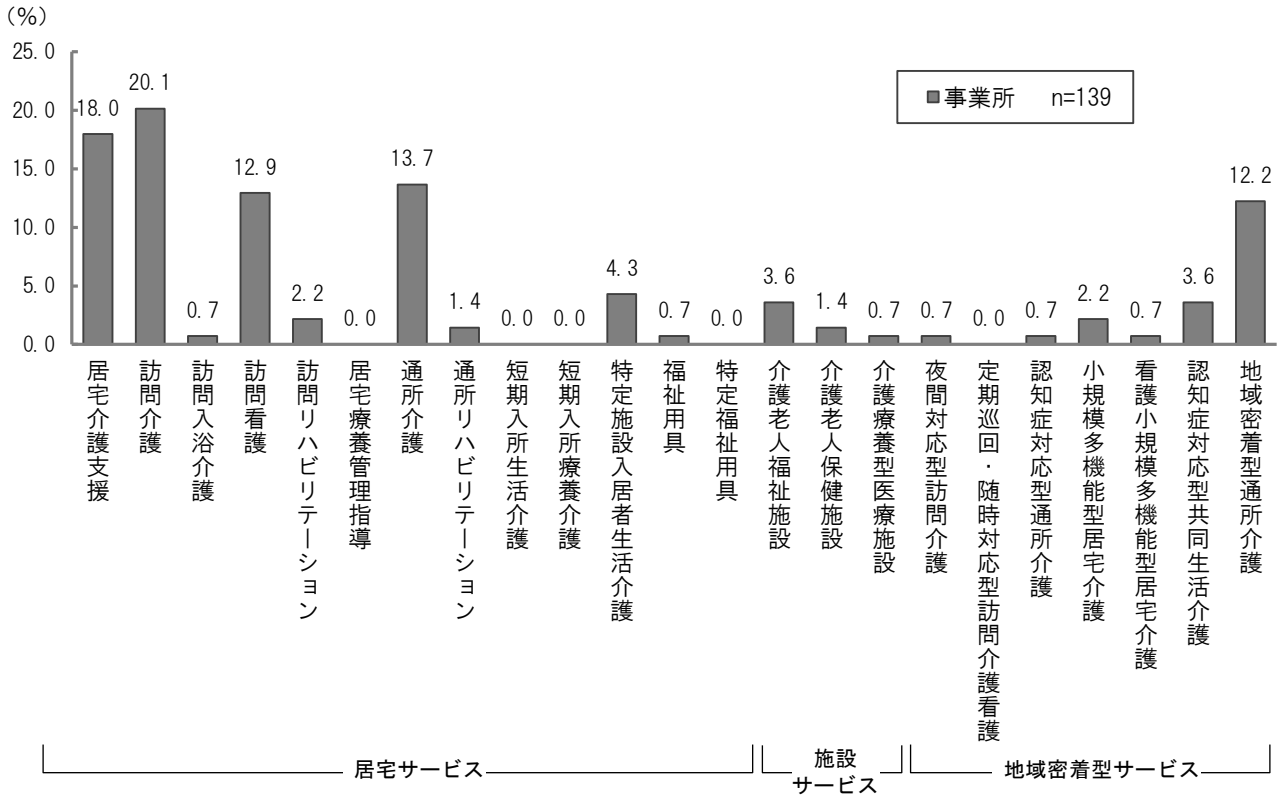
## 9 調査結果（介護サービス事業所）

### （1）事業所の概要

#### ①主とするサービス

主とするサービスは、「訪問介護」が 20.1%で最も高く、次いで「居宅介護支援」が 18.0%、「通所介護」が 13.7%となっている。

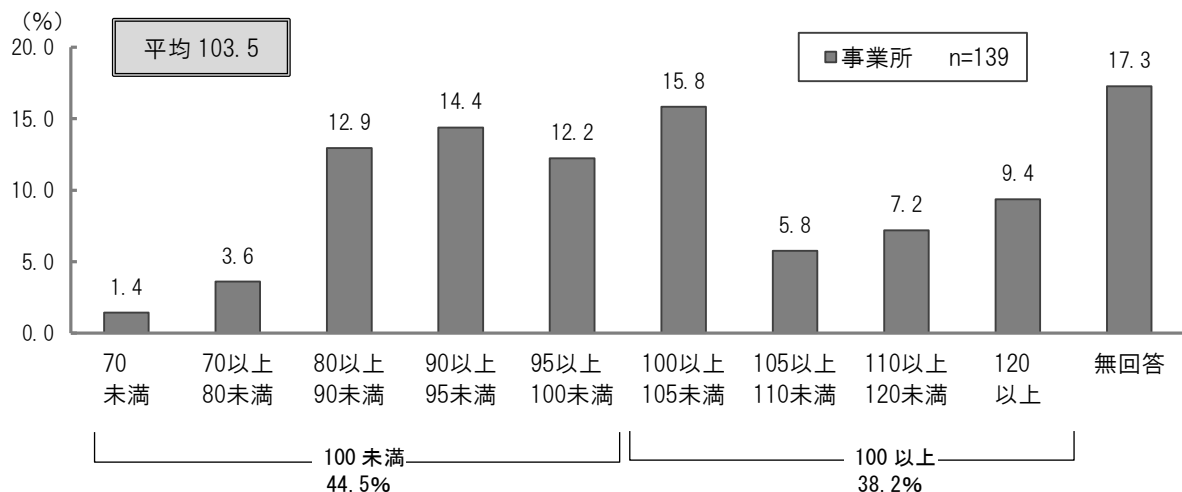
##### ▼主とするサービス



#### ②平成 27 年度の事業収入

平成 26 年度の事業収入を 100 とした場合の平成 27 年度の事業収入は、平均 103.5 で、「100 以上 105 未満」が 15.8%、「90 以上 95 未満」が 14.4%となっている。

##### ▼平成 27 年度の事業収入指数（平成 26 年度を 100 とした指数）



### ③法人の種類

法人の種類は、「民間企業」が 59.7%で最も高く、次いで「社会福祉法人」が 15.8%、「医療法人」が 7.2%となっている。

#### ▼法人の種類

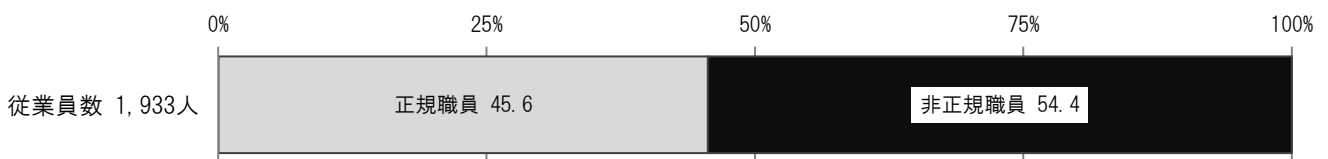


## (2) 従業員について

### ①従業員の雇用形態と性別

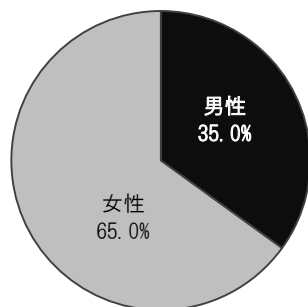
従業員のうち、「正規職員」が 45.6%、「非正規職員」が 54.4%となっている。「正規職員」の性別は、男性が 35.0%、女性が 65.0%となっており、「非正規職員」は男性が 16.5%、女性が 83.5%となっている。

#### ▼従業員の雇用形態



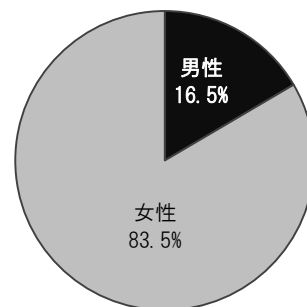
#### ▼正規職員の性別

正規職員数 881人



#### ▼非正規職員の性別

非正規職員数 1,052人



## ②介護サービス事業に従事する従業員の1年間の採用者数と離職者数

平成27年度の採用者数は合計262人、平均2.3人で、離職者数は合計192人、平均1.7人となっている。

離職者のうち、勤務年数「1年未満」が91人（離職者全体の47.4%）、「1年以上3年未満」が62人（離職者全体の32.3%）となっており、勤務年数3年未満の離職者が全体の約8割を占めている。

採用者のうち、「訪問介護員」が76人（29.0%）、「その他介護職員」が186人（71.0%）となっている。

離職者のうち、「訪問介護員」が44人（22.9%）、「その他介護職員」が148人（77.1%）となっている。

### ▼平成27年度の採用者数と離職者数

		ア		イ	
		1年間の採用者・離職者		離職者の内訳 (勤務年数別)	
		採用者数	離職者数	1年未満	1年以上 3年未満
①②合計（算出）		262	192	91	62
平均		2.3	1.7	0.8	0.5
① 訪 問 介 護 員	訪問介護員合計（算出）	76	44	23	15
	平均	0.7	0.4	0.2	0.1
	1. 正規職員	30	17	10	2
	平均	0.6	0.4	0.2	0.1
	2. 非正規職員合計（算出）	46	27	13	13
	平均	0.4	0.2	0.1	0.1
② そ の 他 介 護 職 員	常勤	0	2	0	2
	平均	0	0.1	0	0.1
	短時間	46	25	13	11
	平均	1.1	0.6	0.3	0.3
	その他介護職員合計（算出）	186	148	68	47
	平均	1.6	1.3	0.6	0.4
① 訪 問 介 護 員	1. 正規職員	96	70	29	22
	平均	1.6	1.3	0.6	0.5
	2. 非正規職員合計（算出）	90	78	39	25
	平均	0.8	0.7	0.3	0.2
	常勤	20	17	9	5
	平均	0.4	0.4	0.2	0.1
② そ の 他 介 護 職 員	短時間	70	61	30	20
	平均	1.4	1.2	0.7	0.5

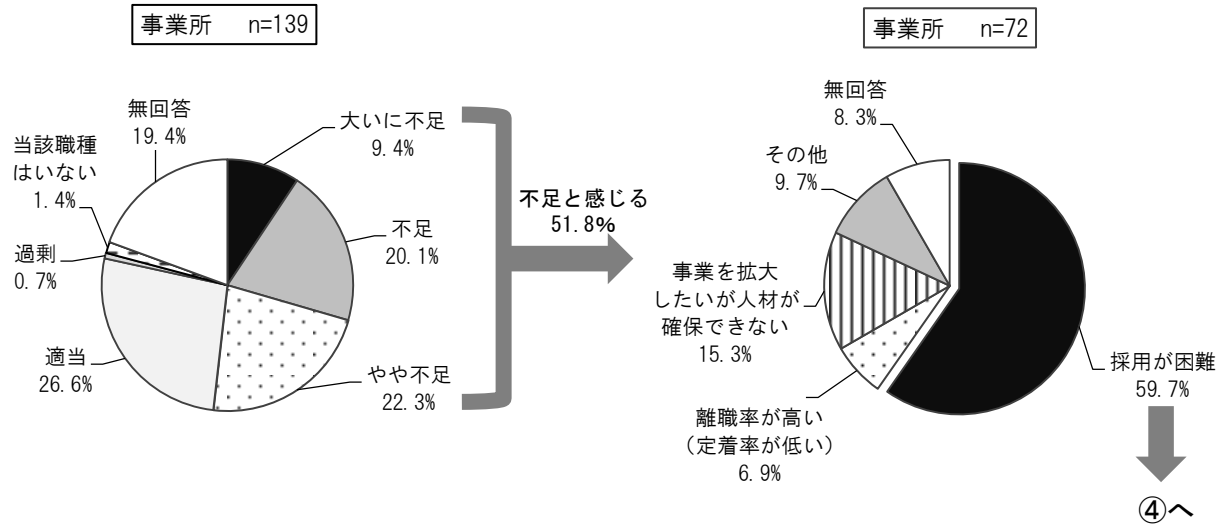
※「離職者の内訳」記載数をもとに合計人数を算出している。

### ③従業員全体の過不足状況

従業員全体の過不足状況は、「適当」が26.6%となっているが、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合わせると51.8%が不足と感じており、その理由は、「採用が困難」が59.7%、「事業を拡大したいが人材が確保できない」が15.3%となっている。

▼従業員全体の過不足状況

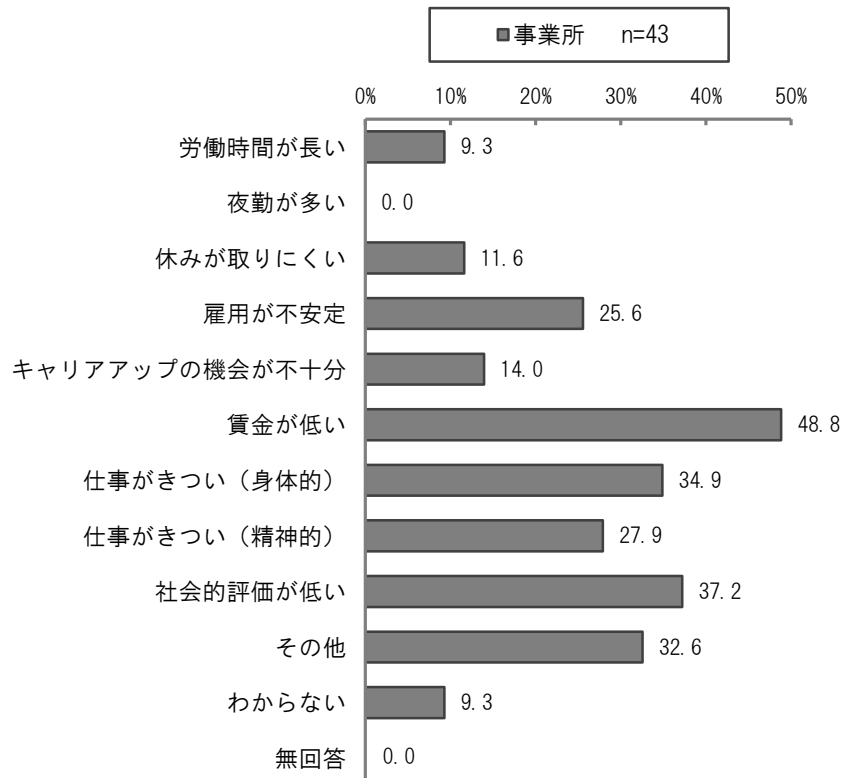
▼不足と感じる理由



### ④採用が困難な原因

採用が困難な原因は、「賃金が低い」が48.8%で最も高く、次いで「社会的評価が低い」が37.2%、「仕事がきつい(身体的)」が34.9%となっている。

▼採用が困難な原因 (3つ以内複数回答)

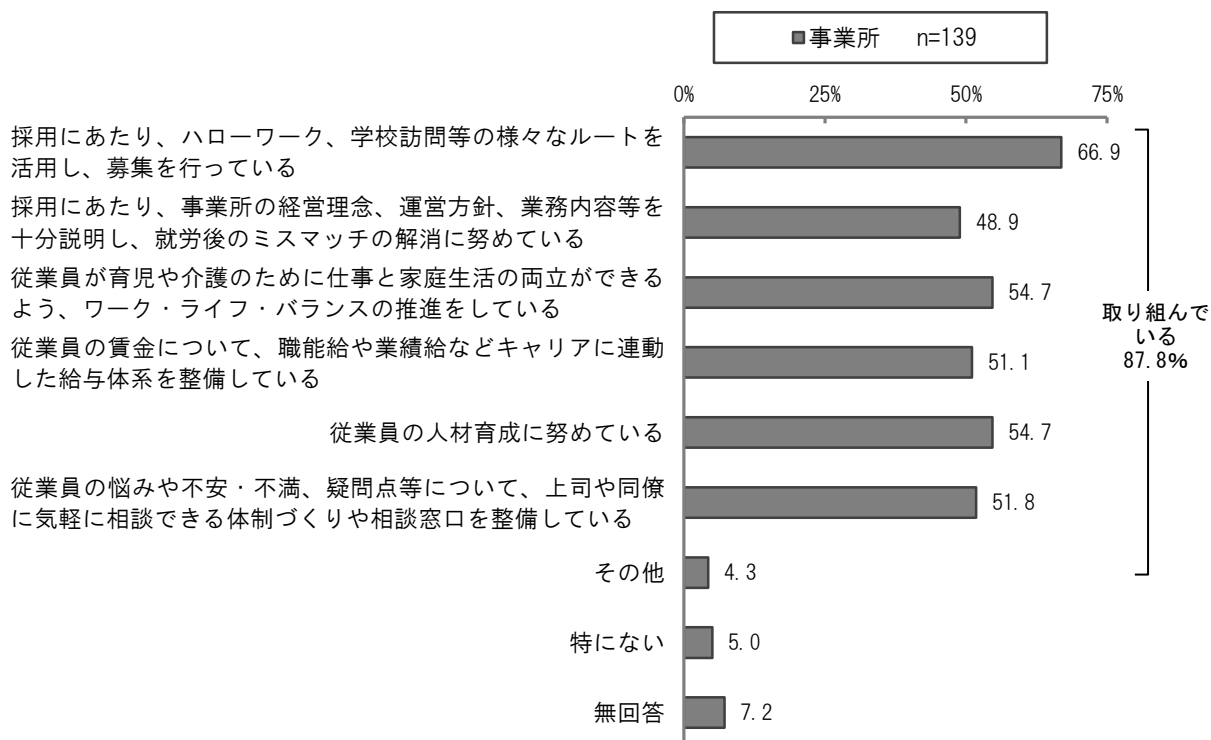


### (3) 介護人材についての取組

#### ①介護人材確保のための取組

介護人材確保のために取り組んでいる割合は87.8%で、「採用にあたり、ハローワーク、学校訪問等の様々なルートを活用し、募集を行っている」が66.9%で最も高く、次いで「従業員が育児や介護のために仕事と家庭生活の両立ができるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進をしている」「従業員の人材育成に努めている」がともに54.7%となっている。

▼介護人材確保のための取組（複数回答）

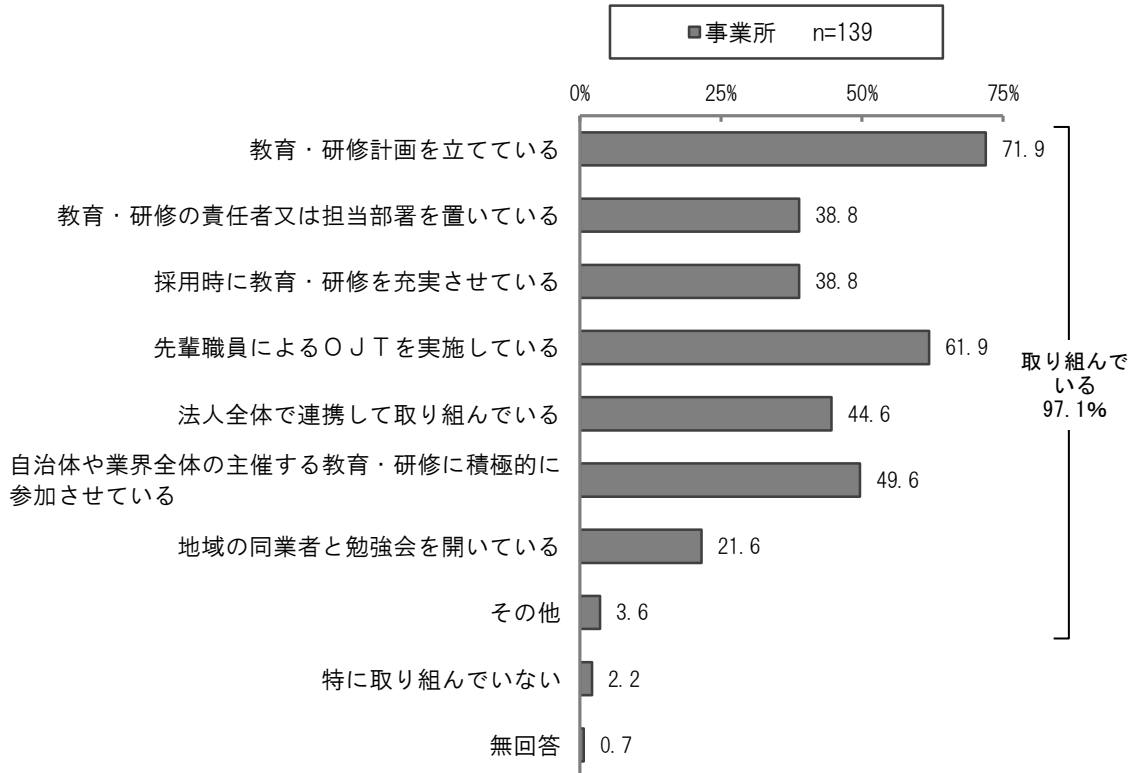


※「取り組んでいる」=100%－「特にない」－「無回答」

## ②人材育成のための取組

人材育成のために取り組んでいる割合は 97.1%で、「教育・研修計画を立てている」が 71.9%で最も高く、次いで「先輩職員による OJT を実施している」が 61.9%、「自治体や業界全体の主催する教育・研修に積極的に参加させている」が 49.6%となっている。

▼人材育成のための取組（複数回答）

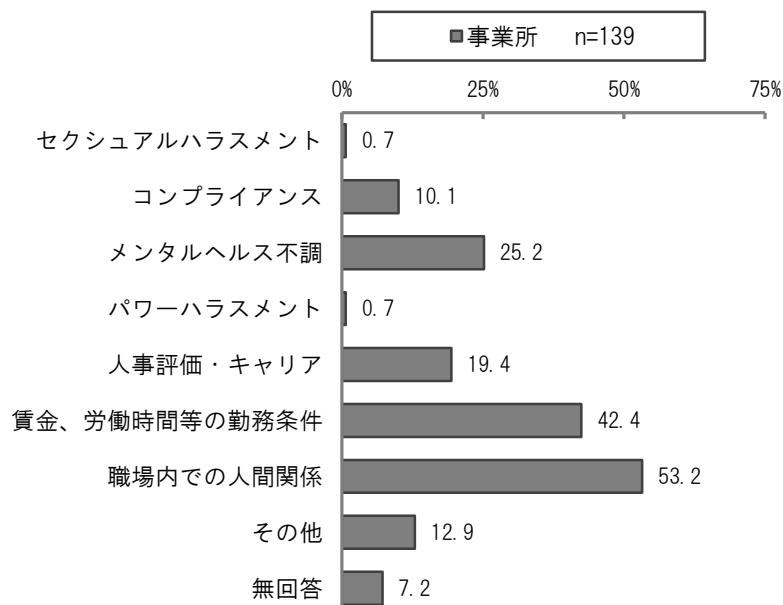


※「取り組んでいる」=100%－「特にない」－「無回答」

## (4) 従業員からの相談内容

従業員からの相談内容は、「職場内での人間関係」が 53.2%で最も高く、次いで「賃金、労働時間等の勤務条件」が 42.4%、「メンタルヘルス不調」が 25.2%となっている。

▼従業員からの相談内容（3つまで複数回答）

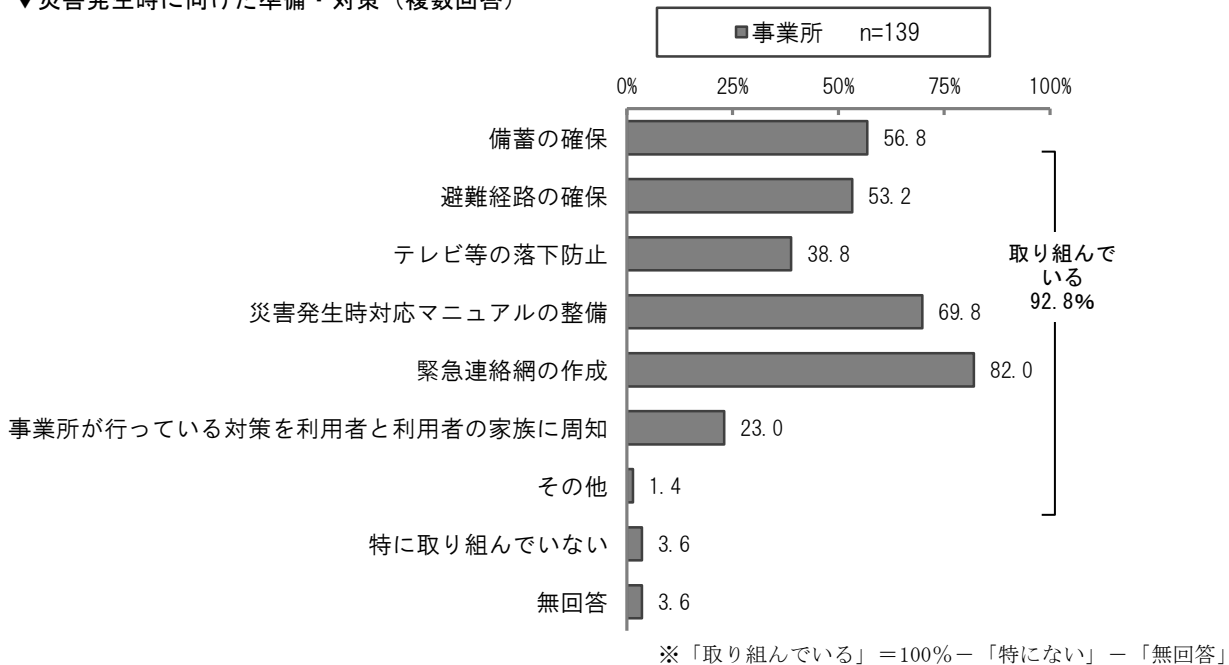




## (5) 災害発生時に向けた準備・対策

災害発生時に向けた準備・対策に取り組んでいる割合は92.8%で、「緊急連絡網の作成」が82.0%で最も高く、次いで「災害発生時対応マニュアルの整備」が69.8%、「備蓄の確保」が56.8%となっている。

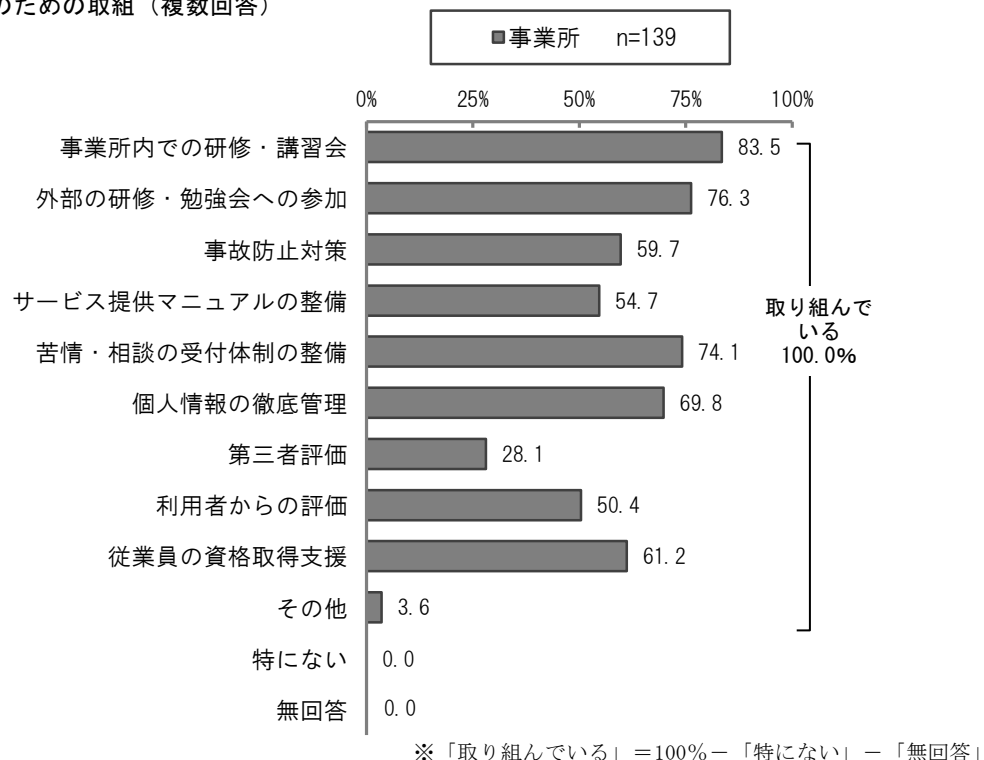
▼災害発生時に向けた準備・対策（複数回答）



## (6) サービスの質向上のための取組

サービスの質向上のために取り組んでいる割合は100.0%で、「事業所内での研修・講習会」が83.5%で最も高く、次いで「外部の研修・勉強会への参加」が76.3%、「苦情・相談の受付体制の整備」が74.1%となっている。

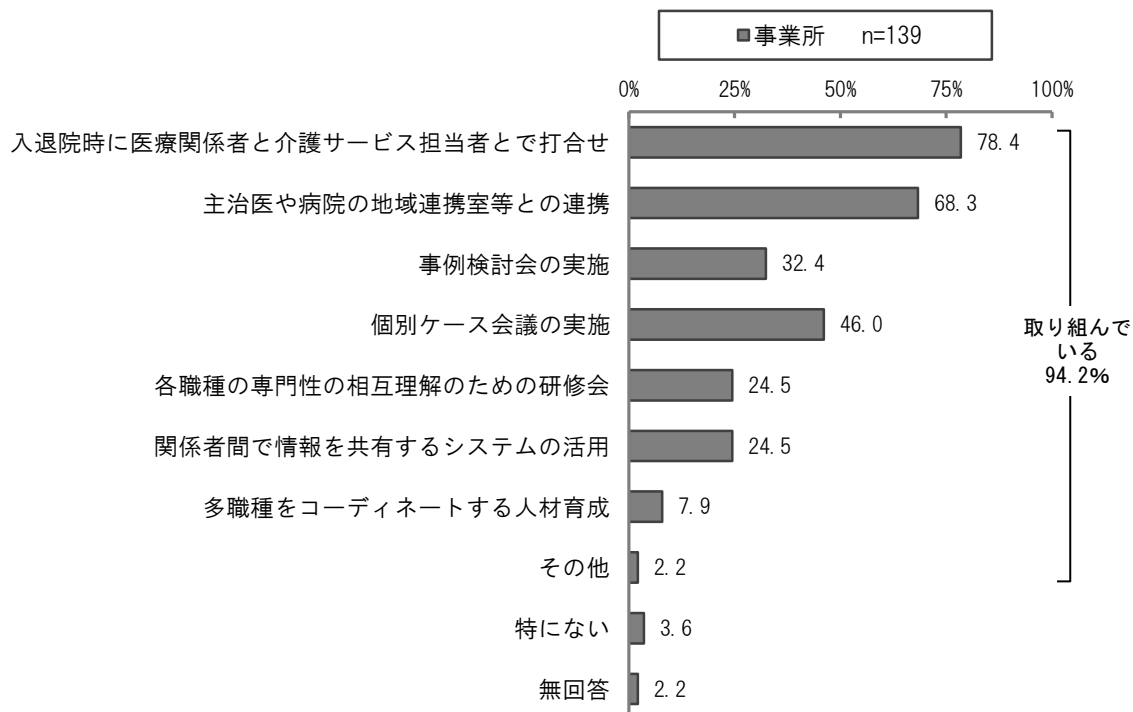
▼サービスの質向上のための取組（複数回答）



## (7) 医療連携の取組

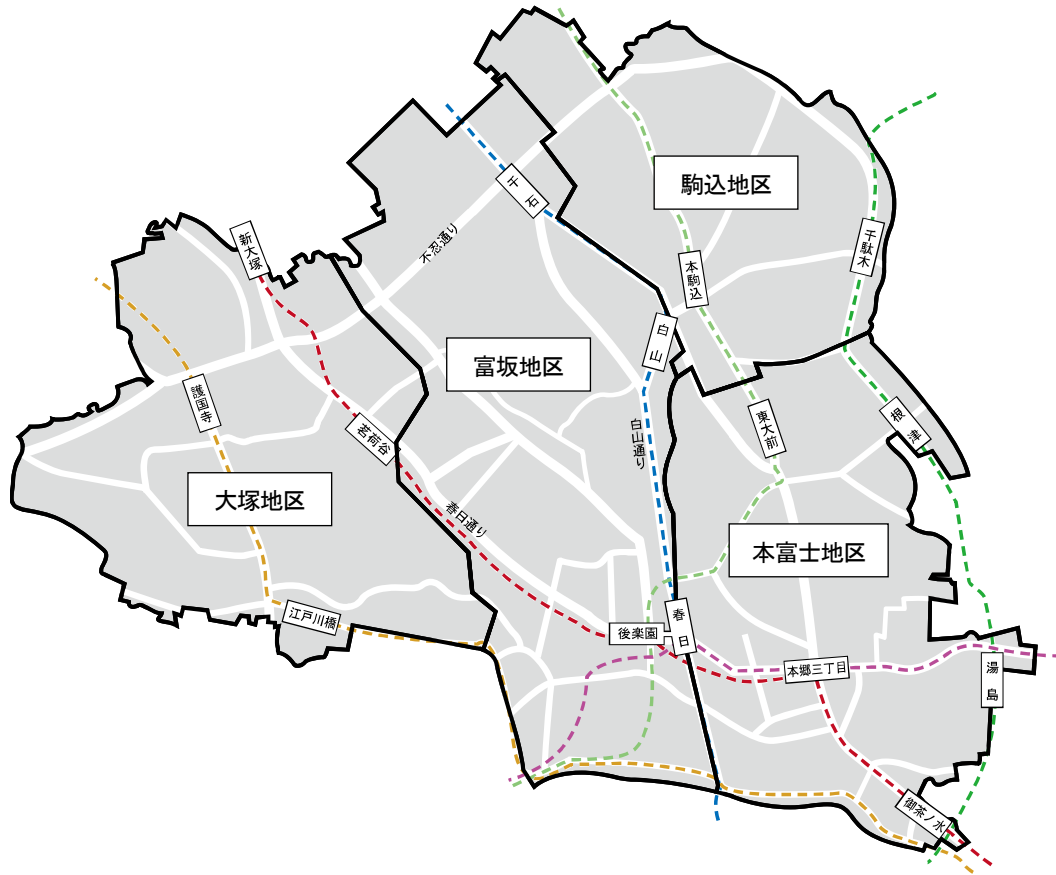
医療との連携について取り組んでいる割合は94.2%で、「入退院時に医療関係者と介護サービス担当者として打合せ」が78.4%で最も高く、次いで「主治医や病院の地域連携室等との連携」が68.3%、「個別ケース会議の実施」が46.0%となっている。

### ▼医療連携の取組（複数回答）



※「取り組んでいる」=100%－「特になし」－「無回答」

▼文京区の日常生活圏域



---

平成 28 年度文京区高齢者等実態調査  
概要版

発行 文京区福祉部介護保険課  
〒112-8555  
文京区春日一丁目 16 番 21 号  
電話 03-3812-7111 (代表)

---